

第2章 社会

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる民主的，平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断する。	平素から各種の資料に親しみ，社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

社会科においては，学習指導要領の内容の(1)ア，イや(2)ア，イなどの中項目を内容のまとめりとして，これらごとに評価規準を作成した。ただし，歴史的分野については大項目を内容のまとめりとした。

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

地理的分野

1 地理的分野の目標

- (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め，広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ，地理的な見方や考え方の基礎を培い，我が国の国土に対する認識を養う。
- (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ，それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し，地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる。
- (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し，それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること，また，それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。
- (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に選択，活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

2 地理的分野の評価の観点の趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
地理的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立って我が国の国土の特色について認識を養おうとする。	地理的事象から課題を見いだし，日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し，公正に判断する。	地図や統計，映像など地域に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり，発表や討論などを行った	世界と日本の地域構成，地域の規模に応じてとらえた地域的特色，世界と比べて見た日本の地域的特色などを理解し，その知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「(1) ア 世界の地域構成」

【学習指導要領の内容】

地球儀や世界地図を活用し，緯度と経度，大陸と海洋の分布，主な国々の名称と位置などを取り上げ，世界の地域構成を大観させる。

(ア) 地球上の位置関係と水陸の分布

地球儀や世界地図を活用し，緯度と経度，時差，大陸と海洋の分布などを取り上げ，生活舞台としての地球を大観させ，地球的規模での位置関係をとらえる基礎的な技能や知識を身に付けさせる。

(イ) 国々の構成と地域区分

現代の世界は，州や大陸及びそれらを幾つかに区分した地域でとらえられていることや様々な国々から構成されていることを理解させ，主な国々の名称と位置を地図を用いて身に付けさせるとともに，地名や地図への関心を高める。

【「(1) ア 世界の地域構成」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
生活舞台としての地球に対する関心を高め，地球上の位置関係と水陸の分布，国々の構成と地域区分を意欲的に追究し，世界の地域構成をとらえようとしている。	世界の地域構成を地球上の位置関係と水陸の分布，国々の構成と地域区分を基に多面的・多角的に考察している。	世界の地域構成をとらえるために地球儀や世界地図を活用するとともに，世界の地域構成を追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。	世界の地域構成を地球上の位置関係と水陸の分布，国々の構成と地域区分を基に理解し，その知識を身に付けている。

【「(1) ア 世界の地域構成」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 地球表面の様子や現代の世界を構成する州や大陸，国々に対する関心が高まっている。 緯度と経度を基にした地球上の位置関係のとらえ方を地球儀や世界地図を活用して意欲的に追究している。 大陸と海洋の大まかな形状と位置関係を地球儀や世界地図を活用して意欲的に追究している。 主な国々の名称と位置，世界の地域区分を地球儀や世界地図を活用して意欲的に追究している。 緯度と経度，大陸と海洋の分布，主な国々の名称と位置などを基に世界の地域構成をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 緯度と経度，時差を基に世界の地域構成を考察している。 大陸と海洋の分布を基に世界の地域構成を考察している。 主な国々の名称と位置，世界の地域区分を基に世界の地域構成を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や世界地図の長短に留意して読み取りを行うとともに，地図帳を適切に活用している。 地球儀や世界地図を活用して，地球上の位置を緯度と経度で表している。 地球儀や世界地図を活用して，簡単な時差の計算ができている。 大陸の大まかな形状と位置関係，主な国々の名称と位置がわかる程度の世界の略地図を描いている。 緯度と経度，大陸と海洋の分布，主な国々の名称と位置などを基に世界の地域構成を追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 緯度と経度，時差を理解し，その知識を身に付けている。 大陸と海洋の大まかな形状と位置関係を理解し，その知識を身に付けている。 主な国々の名称と位置，世界の地域区分を理解し，その知識を身に付けている。

(2) 「(1) イ 日本の地域構成」

【学習指導要領の内容】

地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、領域の特色、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる。

(ア) 日本の位置と領域

我が国の国土の位置及び領域の特色と変化を広い視野から考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観させる。

(イ) 都道府県の構成と地域区分

現代の日本は都道府県などを基にして大小様々に地域区分できることなどを理解させ、日本の地域構成を地図上で大観させるとともに、地名や地図への関心を高める。

【「(1) イ 日本の地域構成」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
日本の国土に対する関心を高め、日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を意欲的に追究し、日本の地域構成をとらえようとしている。	日本の地域構成を日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を基に多面的・多角的に考察している。	日本の地域構成をとるために地球儀や地図を活用するとともに、日本の地域構成を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	日本の地域構成を日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を基に理解し、その知識を身に付けている。

【「(1) イ 日本の地域構成」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・世界的視野から見た日本の位置と領域、現代の日本を構成する都道府県に対する関心が高まっている。 ・日本の国土の絶対的位置と相対的位置を地球儀や地図を活用して意欲的に追究している。 ・日本の国土の領域の特色と変化を地球儀や地図を活用して意欲的に追究している。 ・都道府県の位置と名称、日本の地域区分を日本地図を活用して意欲的に追究している。 ・日本の国土の位置、領域の特色、都道府県の位置と名称などを基に日本の地域構成をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国土の絶対的位置と相対的位置を基に世界的視野から日本の地域構成を考察している。 ・日本の国土の領域の特色と変化を基に世界的視野から日本の地域構成を考察している。 ・都道府県の位置と名称、日本の地域区分を基に日本の地域構成を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や地図を活用して、日本の国土の位置を絶対的位置と相対的位置で表している。 ・地球儀や地図を活用して、日本の国土の領域の特色と変化をとらえている。 ・日本を構成する主な島々の大まかな形状や位置関係、都道府県の位置と名称がわかる程度の日本の略地図を描いている。 ・日本の国土の位置、領域の特色、都道府県の位置と名称などを基に日本の地域構成を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国土の絶対的位置と相対的位置を理解し、その知識を身に付けている。 ・日本の国土の領域の特色と変化を理解し、その知識を身に付けている。 ・都道府県の位置と名称、日本の地域区分を理解し、その知識を身に付けている。

(3) 「(2) ア 身近な地域」

【学習指導要領の内容】

身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。

【「(2) ア 身近な地域」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
身近な地域に対する関心を高め、その観察や調査などに意欲的に取り組み、身近な地域の特色をとらえようとしている。	身近な地域の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。	身近な地域に関する観察や調査、地図や統計その他の資料の収集を行い、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、身近な地域の特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	身近な地域の特色とともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。

【「(2) ア 身近な地域」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域に広がる景観などに対する関心が高まっている。 ・身近な地域の諸事象の観察や調査などの活動に意欲的に取り組んでいる。 ・身近な地域の地理的事象から見いだした課題を基に身近な地域の特色をとらえ、地域の発展について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごとらえ、地理的事象として見いだしている。 ・身近な地域の地理的事象を基にして適切な課題を設定している。 ・身近な地域の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目して多面的・多角的に考察している。 ・市町村規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し、適切に選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域に関する野外での観察や地域調査、縮尺の大きな地図や統計その他の資料の収集を行っている。 ・身近な地域の特色をとらえるために、景観の観察、縮尺の大きな地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 ・身近な地域の特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境条件や他地域との結び付きなど人間のかかわりに着目してとらえた身近な地域の特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。

(4) 「(2) イ 都道府県」

【学習指導要領の内容】

47 都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。

【「(2) イ 都道府県」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
都道府県に対する関心を高め、その調査に意	都道府県の地理的事象から課題を見だし、	都道府県に関する地図や統計その他の資料を	都道府県の地域的特色とともに、都道府県規

<p>欲的に取り組み、都道府県の地域的特色をとらえようとしている。</p>	<p>それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。</p>	<p>収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、都道府県規模の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。</p>	<p>模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。</p>
---------------------------------------	---	--	--

【「(2) イ 都道府県」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の地理的事象に対する関心が高まっている。 都道府県に関する地図や統計その他の資料を用いた調査に意欲的に取り組んでいる。 都道府県の地理的事象から見いだした課題を基に都道府県規模の地域的特色をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、地理的事象として見いだしている。 都道府県の地理的事象を基にして適切な課題を設定している。 都道府県の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目して多面的・多角的に考察している。 都道府県規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し、適切に選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県に関する地図や都道府県単位の統計その他の資料を収集している。 都道府県規模の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 都道府県規模の地域的特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目してとらえた都道府県規模の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 都道府県規模の地域的特色を地図や統計その他の資料を用いてとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。

(5) 「(2) ウ 世界の国々」

【学習指導要領の内容】

世界の国々の中から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。

【「(2) ウ 世界の国々」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<p>世界の国々に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、世界の国々の地域的特色をとらえようとしている。</p>	<p>世界の国々の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。</p>	<p>世界の国々に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、世界の国々の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。</p>	<p>世界の国々の地域的特色とともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。</p>

【「(2) ウ 世界の国々」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解

<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の地理的事象に対する関心が高まっている。 ・世界の国々に関する地図や統計その他の資料を用いた調査に意欲的に取り組んでいる。 ・世界の国々の地理的事象から見いだした課題を基に世界の国々の地域的特色をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、地理的事象として見いだしている。 ・世界の国々の地理的事象を基にして適切な課題を設定している。 ・世界の国々の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目して多面的・多角的に考察している。 ・国家規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し、適切に選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々に関する地図や国家単位の統計その他の資料を収集している。 ・世界の国々の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 ・世界の国々の地域的特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境条件や他地域との結び付きなど人間の営みとのかわりに着目してとらえた世界の国々の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・国家規模の地域的特色を地図や統計その他の資料を用いてとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。
---	---	--	---

(6) 「(3) ア 様々な面からとらえた日本」

【学習指導要領の内容】

世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を追究し、我が国の国土の特色を様々な面から大観させるとともに、地域の規模に応じて、また、地域間を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。

(ア) 自然環境から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本は環太平洋造山帯に属し大地の動きが活発であること、温帯の島国、山国で降水量が多く、緑におおわれた国であること、自然災害が発生しやすく防災対策が大切であることといった特色を理解させるとともに、国内では地形、気候などにおいて地域差がみられることを大観させる。

(イ) 人口から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本は人口が多く、また、人口密度が高く、平均寿命が長い国であること、少子化、高齢化に伴う課題を抱えていることといった特色を理解させるとともに、国内では平野部に多くの人口が集中し、過密・過疎地域がみられることを大観させる。

(ウ) 資源や産業から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題を抱えていることを大観させる。

(エ) 生活・文化から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本においては比較的ものの豊かな中で人々が暮らしていること、また、近代化や国際化の進展などにより伝統的な生活・文化は変容していること、外国から入ってきた生活・文化は日本の環境条件に対応させて取り入れてきたことといった特色を理解させるとともに、国内では生活・文化の地域による差異が次第になくなりつつあるが、一方で各地に特色ある生活・文化がみられることを大観させる。

(オ) 地域間の結び付きから見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本は国際間の交通・通信網の整備が進んでいること、世界の各地と強く結び付いていること、結び付きの深さや内容は相手の国や地域によって特色が見られることを理解させるとともに、国内でも交通・通信網の整備が進んでいること、各地の時間的な距離や位置の関係が大きく変化しつつあること、人や物資の移動には地域的特色がみられること、各地域の特色は他地域との結び付きの影響を受けながら変化していることを大観させる。

【「(3) ア 様々な面からとらえた日本」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
日本の国土の特色に対する関心を高め、それを世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から意欲的に追究し、我が国の国土の特色をとらえようとしている。	日本の国土の特色を世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から追究するとともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を考察している。	世界や日本の地図や統計その他の資料を収集し、様々な面から日本の国土の特色をとらえるための情報を適切に選択して活用するとともに、我が国の国土の特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面からとらえた日本の国土の特色とともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。

【「(3) ア 様々な面からとらえた日本」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 世界と比べて見た日本の地域的特色と日本国内の諸地域の特徴に対する関心が高まっている。 世界的視野から見た日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きの五つの観点から意欲的に追究している。 日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を、自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きの五つの観点から意欲的に追究している。 我が国の国土の特色を、世界的視野と日本全体の視野に立って五つの観点からとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的視野から見た日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きの五つの観点から、世界と比較し関連付けて考察している。 日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を、自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きの五つの観点から、傾向性や類似性に着目して考察している。 世界と日本を比較し関連付けて、また、国内の諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本の自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きに関する地図や統計その他の資料を収集している。 世界的視野から見た日本の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 我が国の国土の特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きの五つの観点から、世界と比較し関連付けてとらえた日本の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 自然環境、人口、資源や産業、生活・文化、地域間の結び付きの五つの観点から、傾向性や類似性に着目してとらえた国内の諸地域の特徴を理解し、その知識を身に付けている。 世界と日本を比較し関連付けて、また、国内の諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。

(7) 「(3) イ 様々な特色を関連付けて見た日本」

【学習指導要領の内容】

アの各項目で学習した成果を相互に関連付け、世界的視野から見た日本の地域的特色、日本全体の視野から見た諸地域の特徴を大観させる。

【「(3) イ 様々な特色を関連付けて見た日本」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
日本の国土の特色に対する関心を高め、それをアの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて意欲的に追究し、我が国の国土の特色をとらえようとしている。	日本の国土に関する課題を見だし、アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて追究し、我が国の国土の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて我が国の国土の特色をとらえるために、地図や統計その他の資料を活用するとともに、日本の国土に関する課題を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けてとらえた我が国の国土の特色を理解し、その知識を身に付けている。

【「(3) イ 様々な特色を関連付けて見た日本」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 世界と比べて見た日本の地域的特色と日本国内の諸地域の特色に対する関心が高まっている。 アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて、世界的視野から見た日本の地域的特色を意欲的に追究している。 アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を意欲的に追究している。 アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて、世界的視野と日本全体の視野から我が国の国土の特色について認識を養おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を基にして日本の国土に関する適切な課題を設定している。 日本の国土に関して設定した課題を、アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて、世界的視野から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 日本の国土に関して設定した課題を、アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて、日本全体の視野から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果の中から、日本の国土に関して設定した課題を考察するための情報を適切に選択し、相互に関連付けて活用している。 アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて我が国の国土の特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて世界的視野からとらえた日本の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 アの(ア)～(オ)の各項目で学習した成果を相互に関連付けて日本全体の視野からとらえた国内の諸地域の特色を理解し、その知識を身に付けている。

歴史的分野

1 歴史的分野の目標

- (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。
- (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。
- (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。
- (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

2 歴史的分野の評価の観点の趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもととする。	歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。	年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。	我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「(1) 歴史の流れと地域の歴史」

【学習指導要領の内容】

ア 我が国の歴史について、関心ある主題を設定しまとめる作業的な活動を通して、時代の移り変わりに気付かせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高める。

イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせる。

【「(1) 歴史の流れと地域の歴史」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
我が国の歴史の流れと地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	我が国の歴史の流れと地域の歴史について、歴史的事象から課題を見だし、時代の移り変わりや地域の具体的な事柄と我が国の歴史とのかかわりを多面的・多角的に考察している。	我が国の歴史の流れと地域の歴史に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果をまとめたり、発表や討論したりしている。	我が国の歴史の流れにおける時代の移り変わりに気付くとともに、身近な地域の歴史とのかかわりの中で我が国の歴史を理解している。

【「(1) 歴史の流れと地域の歴史」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
・我が国の歴史の流れに対する関心を高め、	・我が国の歴史について、関心ある主題を	・関心ある主題に関する年表や歴史地図、	・時代の大きな移り変わりに気付いている。

<p>意欲的に追究しようとしている。</p> <p>・身近な地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。</p>	<p>設定し、時代の大きな移り変わりを考察している。</p> <p>・身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の具体的な事柄と我が国の歴史とのかかわりを考察している。</p>	<p>絵画、文献、映像などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表したりしている。</p> <p>・身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の歴史に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論したりしている。</p>	<p>・身近な地域の具体的な事柄とかかわらせて、我が国の歴史を理解している。</p>
---	--	---	--

(2) 「(2) 古代までの日本」

【学習指導要領の内容】

ア 人類が出現し、やがて世界の古代文明が生まれたこと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる。

イ 国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和朝廷による統一を通して理解させる。その際、当時の人々の信仰、大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせる。

ウ 大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して理解させる。

エ 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる。

【「(2) 古代までの日本」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<p>国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。</p>	<p>国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。</p>	<p>国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化の特色などを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。</p>

【「(2) 古代までの日本」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<p>・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化を多面的・多角的に考察している。</p>	<p>・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化に関する考古学の成果をはじめとする様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、</p>	<p>・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化を、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家が形成されていく過程のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 ・ 国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・ 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和朝廷による統一を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。 ・ 聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。 ・ 古代の文化の特色を代表的な事例を取り上げて多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・ 国家が形成されていく過程のあらましに関する考古学の成果や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・ 国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに関する画像や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・ 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに関する画像や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家が形成されていく過程のあらましを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解するとともに、当時の人々の信仰、大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付き、その知識を身に付けている。 ・ 国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。 ・ 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。
--	---	---	---

(3) 「(3) 中世の日本」

【学習指導要領の内容】

ア 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。

イ 農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解させるとともに、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色について考えさせる。

【「(3) 中世の日本」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見いだし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。</p>	<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。</p>	<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。</p>

【「(3)中世の日本」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開に対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・ 中世の諸産業の発達と社会の変化，新たな文化に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，応仁の乱後の社会的な変動を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。 ・ 中世の諸産業の発達と社会の変化，新たな文化の特色を代表的な事例を取り上げて多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開に関する絵画や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・ 中世の諸産業の発達と社会の変化，新たな文化に関する絵画や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を理解するとともに、その間の東アジア世界とのかかわりに気付き、その知識を身に付けている。 ・ 中世の諸産業の発達と社会の変化，新たな文化の特色を理解し、その知識を身に付けている。

(4) 「(4) 近世の日本」

【学習指導要領の内容】

- ア 戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航について理解させるとともに、その文化の伝来が我が国の社会に及ぼした影響について考えさせる。
- イ 織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係のあらましを通して政治や社会の大きな変化を理解させるとともに、武将や豪商などの生活文化の展開に気付かせる。
- ウ 江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，身分制度の確立及び農村の様子を通して、江戸幕府の政治の特色について考えさせる。その際、鎖国下の対外関係に気付かせる。
- エ 産業，交通などが発達し，町人文化が都市を中心に形成されたことを理解させるとともに，地方の生活文化について着目させ，現在との結び付きについて考えさせる。
- オ 社会の変動や欧米諸国の接近に対応した幕府の政治改革と政治の行き詰まりを理解させるとともに，新しい学問・思想の動きについて気付かせる。

【「(4) 近世の日本」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<p>近世社会の成立とその後の政治，社会，文化に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>近世社会の成立とその後の政治，社会，文化から課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。</p>	<p>近世社会の成立とその後の政治，社会，文化に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。</p>	<p>近世社会の成立とその後の政治，社会，文化の特色を、我が国の歴史とかかわる世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。</p>

【「(4) 近世の日本」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解

<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航に対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・織田・豊臣の時期の政治や社会の大きな変化と文化の展開に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 ・江戸幕府の政治に対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 ・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや、新しい学問・思想の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航及びヨーロッパの文化の伝来が我が国の社会に及ぼした影響を多面的・多角的に考察している。 ・織田・豊臣による統一事業と対外関係のあらまし、文化の展開を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。 ・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子を通して、幕府の政治の特色を多面的・多角的に考察している。 ・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化の特色を身近な地域の事例や代表的な事例を取り上げて多面的・多角的に考察している。 ・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや新しい学問・思想の動きを多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航に関する絵画や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・織田・豊臣の時期の政治や社会の大きな変化と文化の展開に関する絵画や文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・江戸幕府の政治の特色に関する文献などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化に関する絵画、文献、民俗学の成果などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや、新しい学問・思想の動きに関する文献、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航を、我が国の歴史とかかわる世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。 ・織田・豊臣の時期の政治や社会の大きな変化を、我が国の歴史とかかわる世界の歴史を背景に理解するとともに、武将や豪商などの生活文化の展開に気付き、その知識を身に付けている。 ・江戸幕府の政治の特色を、我が国の歴史とかかわる世界の歴史を背景に理解するとともに、鎖国下の対外関係に気付き、その知識を身に付けている。 ・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化の特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりを、社会の変動を背景に理解するとともに、新しい学問・思想の動きに気付き、その知識を身に付けている。
---	--	--	--

(5) 「(5) 近現代の日本と世界」

【学習指導要領の内容】

ア 市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出を背景に、開国とその影響について理解させる。

イ 明治維新の経緯のあらましを理解させ、新政府の諸改革により近代国家の基礎が整えられたことに気付かせるとともに、人々の生活の大きな変化について考えさせる。

ウ 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを、自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して理解させる。

エ 政府の富国強兵・殖産興業政策の下で進展した我が国の近代産業が産業革命を経て発展したこ

とと、その中での国民生活の変化について理解させる。また、この時期に近代文化が形成され、都市を中心に文化の大衆化が進んだことに気付かせる。

オ 第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましを理解させるとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、この時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせる。

カ 昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きに着目させて、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させるとともに、戦時下の国民の生活に着目させる。また、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

キ 第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解させる。

ク 高度経済成長以降の我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえさせ、経済や科学技術の急速な発展とそれに伴う国民の生活の向上や国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて気付かせる。

【「(5) 近現代の日本と世界」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の精神を養い国民としての自覚をもとうとする。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きから課題を見いだし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きを理解し、その知識を身に付けている。

【「(5) 近現代の日本と世界」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響に対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・ 明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・ 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 ・ 明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 ・ 自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して、我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを多面的 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響に関する絵画、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 ・ 明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する絵画、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 ・ 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに関する文献、絵画、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米諸国のアジアへの進出を背景に、我が国の開国とその影響を理解し、その知識を身に付けている。 ・ 明治維新の経緯のあらましを、世界の動きを背景に理解するとともに、近代国家の基礎が整えられたことに気付き、その知識を身に付けている。 ・ 急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを、当時の国際情勢を背景に理解し、その知識を身に付けている。

<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化，文化に対する関心を高め，意欲的に追究している。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましとこの時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに対する関心を高め，意欲的に追究している。 ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の歴史のあらましと世界の動きに対する関心を高め，意欲的に追究している。 ・第二次世界大戦後，国際社会に復帰するまでの我が国の動きに対する関心を高め，意欲的に追究している。 ・高度経済成長以降の我が国の動きに対する関心を高め，意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的に考察し，公正に判断している。 ・我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化及び近代文化の形成と文化の大衆化を多面的・多角的に考察し，公正に判断している。 ・第一次世界大戦の背景や戦後の国際協調の動き，政党政治の発達，社会運動の展開などを通して，第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと我が国の国民の政治的自覚の高まりを多面的・多角的に考察し，公正に判断している。 ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，アジア諸国との関係，欧米諸国の動きを通して，経済の混乱と社会問題の発生，軍部の台頭から戦争までの経過及び戦争の影響を多面的・多角的に考察し，公正に判断している。 ・第二次世界大戦後，国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加を多面的・多角的に考察し，公正に判断している。 ・高度経済成長，沖縄返還など節目となる歴史的事象を取り上げて，高度経済成長以降の我が国の動きを多面的・多角的に 	<ul style="list-style-type: none"> 選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。 ・我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化，文化に関する文献，映像，統計・グラフなどの様々な資料を収集し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましとこの時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに関する文献，映像，統計・グラフなどの様々な資料を収集し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。 ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の歴史のあらましと世界の動きに関する文献，映像，統計・グラフ，見学・調査の結果などの様々な資料を収集し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。 ・第二次世界大戦後，国際社会に復帰するまでの我が国の動きに関する文献，映像，統計・グラフ，見学・調査の結果などの様々な資料を収集し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。 ・高度経済成長以降の我が国の動きに関する文献，映像，統計・グラフ，新聞，見学・調査の結果などの様々な資料を収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化を理解するとともに，近代文化の形成と文化の大衆化に気付き，その知識を身に付けている。 ・第一次世界大戦前後の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解するとともに，この時期の我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付き，その知識を身に付けている。 ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の歴史のあらましを世界の動きと関連させて理解し，その知識を身に付けている。 ・大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し，その知識を身に付けている。 ・第二次世界大戦後，国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加を，世界の動きと関連させて理解し，その知識を身に付けている。 ・高度経済成長以降の我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえ，経済や科学技術の発展とそれに伴う国民生活の向上，
---	---	---	---

	考察し，公正に判断している。	し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果を表現している。	国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことに気付き，その知識を身に付けている。
--	----------------	--	---

公民的分野

1 公民的分野の目標

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ，民主主義に関する理解を深めるとともに，国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- (2) 民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて，個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに，社会の諸問題に着目させ，自ら考えようとする態度を育てる。
- (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で，世界平和の実現と人類の福祉の増大のために，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- (4) 現代の社会的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に収集，選択して多面的・多角的に考察し，事実を正確にとらえ，公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

2 公民的分野の評価の観点の趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
現代の社会的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。	現代の社会的事象から課題を見だし，社会的事象の意義や役割，相互の関連などを多面的・多角的に考察し，様々な考え方を踏まえ公正に判断する。	統計や新聞，映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書などにまとめたり，発表や討論などを行ったりする。	現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方，社会的事象の意義や役割，相互の関連などを理解し，その知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「(1) ア 現代日本の歩みと私たちの生活」

【学習指導要領の内容】

現代日本の発展の過程と国際化の進展のあらましについて理解させるとともに，現代社会の特色に気付かせる。その際，高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の変容について，国民生活と関連させて理解させるとともに，国際社会における我が国の役割について考えさせる。

【「(1) ア 現代日本の歩みと私たちの生活」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
高度経済成長以降の社会的事象に対する関心を高め，課題を意欲的に追究し，国際社会における我が国の役割を考えようとしている。	高度経済成長以降の社会的事象から課題を見だし，現代日本の発展の過程を踏まえ国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し，我が国の在り方について様々な観点から公正に判断している。	高度経済成長以降の社会的事象に関する様々な資料を収集し，学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに，課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめたり，発表や討論などを行ったりしている。	社会の変容や特色をとらえるために比較という方法があることを理解し，現代日本の発展の過程，国際化の進展のあらましについて理解するとともに，現代社会の特色に気づき，その知識を身に付けている。

【「(1) ア 現代日本の歩みと私たちの生活」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象に対する関心が高まっている。 「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえて具体的な課題を設け意欲的に追究している。 高度経済成長以降の国際社会における我が国の役割の変化について具体的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象から「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえた課題を見いだしている。 国際社会における我が国の役割について、国際平和や国際協力などの事例を取り上げ、多面的・多角的に考察している。 国際社会における我が国の在り方について政治的、経済的な観点から公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 収集した資料の中から「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえた具体的な課題を追究する学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえた具体的な課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめたり、発表や討論などを行っている。 調査の方法やまとめ方、発表の仕方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変容と現代社会の特色をとらえるために、世界と比較したり過去と比較したりする方法について理解し、その知識を身に付けている。 高度経済成長から今日までの我が国の変容について、国民生活の変化に着目して理解し、その知識を身に付けている。 我が国と世界の諸国との友好関係が成立し国際交流が深まったことを理解し、その知識を身に付けている。 我が国が世界の国々と経済的な結び付きが深まった様子を理解し、その知識を身に付けている。 現代社会の特色として、情報化、少子高齢化、国際化などに気付き、その知識を身に付けている。

(2) 「(1) イ 個人と社会生活」

【学習指導要領の内容】

家族や地域社会などの機能を扱い、人間は本来社会的存在であることに着目させ、個人と社会とのかかわりについて考えさせる。その際、現在の家族制度における個人の尊厳と両性の本質的平等、社会生活における取決めの重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。

【「(1) イ 個人と社会生活」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<p>身近な社会生活に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、よりよい社会生活を営んでいくために、個人と社会とのかかわりについて考えようとしている。</p>	<p>身近な社会生活から課題を見だし、個人と社会とのかかわりについて多面的・多角的に考察し、よりよい社会生活の在り方について様々な考え方を踏まえ公正に判断している。</p>	<p>身近な社会生活とその中に見られる個人と社会とのかかわりに関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表や討論などを行っている。</p>	<p>身近な社会生活の営みについて理解するとともに、個人の尊厳と両性の本質的平等、社会生活における取決めの重要性、取決めを守ることの意義、個人の責任に気付き、その知識を身に付けている。</p>

【「(1) イ 個人と社会生活」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族，学校，地域社会の機能や，社会集団の一員として他の人々と共に営む社会生活に対する関心が高まっている。 ・ 身近な社会集団の中でよりよい生活を営んでいくためには，個人は社会とどのようにかかわればよいかについて，意欲的に追究している。 ・ 個人が社会集団の一員として他の人々と共に社会生活を営んでいることを自覚している。 ・ 社会生活を円滑にするために，個人が互いの合意に基づいてルールを作ることを意識を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい生活を営むためにどうすればよいかについて，身近な社会生活から具体的な課題を見いだしている。 ・ 社会集団の中でよりよい生活を営んでいくためには，個人は社会とどのようにかかわればよいかについて，日常生活に見られるルールや規則などを取り上げ，多面的・多角的に考察している。 ・ 身近な社会生活の問題に着目し，よりよい社会生活の在り方について個人の尊厳と両性の本質的平等の考え方などを踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族，学校，地域社会の機能，日常生活に見られるルールや規則に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 ・ 収集した資料の中から，社会集団の中でよりよい生活を営むためには，個人は社会とどのようにかかわればよいかについて追究する学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 ・ 社会集団の中でよりよい生活を営むためには，個人は社会とどのようにかかわればよいかについて追究し考察した過程や結果をまとめたり，発表や討論などを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族，学校，地域社会の機能について理解し，その知識を身に付けている。 ・ 個人が結び付くことにより社会集団が生まれ，社会生活が営まれていることを理解し，その知識を身に付けている。 ・ 民主社会における個人は，すべて平等に人間として尊重されなければならないものであることに気付き，その知識を身に付けている。 ・ 社会生活を円滑に営むためにルールがつけられていることに気付き，その知識を身に付けている。 ・ ルールや規則は，様々な考えをもつ人が互いに納得して合意できるように努力が払われて作られたものであるがゆえに，それを互いに守ることが大切であることに気付き，その知識を身に付けている。 ・ 個人が互いの合意に基づいてルールを作ったり，それを受け入れていく限り，その結果について責任が伴うことに気付き，その知識を身に付けている。

(3) 「(2) ア 私たちの生活と経済」

【学習指導要領の内容】

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに，価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また，現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解させるとともに，社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる。その際，社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について，勤労の権利と義務，労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連付けて考えさせる。

【「(2) ア 私たちの生活と経済」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている。	社会における企業の役割と社会的責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動の在り方について様々な立場から公正に判断している。	個人と企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産の仕組みのあらまし、金融の働きについて理解し、その知識を身に付けている。

【「(2) ア 私たちの生活と経済」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・個人の消費生活や企業の生産活動などに対する関心が高まっている。 ・個人や企業の経済活動に関する諸問題を意欲的に追究している。 ・今日の経済活動に関する諸問題に着目し、個人や企業の経済活動について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業には、市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割があることについて多面的・多角的に考察している。 ・企業には、その経済活動が及ぼす社会的影響に対して公共の利益に配慮する社会的責任があることについて多面的・多角的に考察している。 ・職業には、家計を維持・向上させるだけでなく、個人の個性を生かすとともに、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支える意義があることについて多面的・多角的に考察している。 ・個人や企業の経済活動の在り方について消費者、生産者、労働者など様々な立場から公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の消費生活や企業の生産活動などに関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 ・収集した資料の中から、経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方などについての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 ・個人や企業の経済活動について追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の意義が人間の生活の維持・向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを理解し、その知識を身に付けている。 ・市場経済においては、企業や個人は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するか選択していることを理解し、その知識を身に付けている。 ・市場経済においては、何をどれだけ生産・消費するかにかかわって、価格には人的・物的資源を効率よく配分する役割があることなどを理解し、その知識を身に付けている。 ・人間に役立つ商品やサービスを作り出す生産が、企業を中心に行われていることを理解し、その知識を身に付けている。 ・家計の貯蓄などを企業の生産活動や生活の資金として円滑に循環させるため、金融機関が仲立ちしていることを理解し、その知識を身に付けている。

(4) 「(2) イ 国民生活と福祉」

【学習指導要領の内容】

国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせる。その際、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させるとともに、限られた財源の配分という観点から財政について考えさせる。

【「(2) イ 国民生活と福祉」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
国や地方公共団体の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている。	国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や財政について多面的・多角的に考察し、国や地方公共団体の経済活動の在り方について様々な観点や立場から公正に判断している。	国や地方公共団体の経済活動に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解し、その知識を身に付けている。

【「(2) イ 国民生活と福祉」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政など、国や地方公共団体の経済活動に対する関心が高まっている。 ・ 市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対する国や地方公共団体の経済活動を意欲的に追究している。 ・ 市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に着目して、国や地方公共団体の経済活動について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体の果たす経済的な役割について多面的・多角的に考察している。 ・ 財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、限られた財源の望ましい配分について多面的・多角的に考察している。 ・ 国や地方公共団体の経済活動の在り方について、国民生活と福祉の向上の観点や、消費者、生産者、納税者など様々な立場から公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国や地方公共団体の経済活動に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 ・ 収集した資料の中から、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体が果たしている経済的な役割についての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 ・ 収集した資料の中から、財政の在り方についての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 ・ 市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について国や地方公共団体がどのように取り組んでいるかを追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会資本が多くの経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として間接的に経済の発展に役立つことについて理解し、その知識を身に付けている。 ・ 産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解するとともに、環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようすることの重要性を理解し、その知識を身に付けている。 ・ 日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解するとともに、一層の充実を図る必要があることを理解し、その知識を身に付けている。 ・ 国や地方公共団体は、消費者の利益の擁護及び増進のために施策を実施する役割を担っていることを理解し、その知識を身に付けている。 ・ 租税が国民生活に大きな影響力をもつ財

			<p>政を支えていることの意義と国民福祉を実現する上で果たす大きな役割について理解し、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民が納税の義務を果たすことの大切さを、租税の意義と役割の学習を通して理解し、その知識を身に付けている。
--	--	--	--

(5) 「(3) ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」

【学習指導要領の内容】

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせるとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。

【「(3) ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
人間の尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、民主的な社会生活について考えようとしている。	我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、民主的な社会生活の在り方について様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	人間の尊重についての考え方と法に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	人間の尊重の考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解し、その知識を身に付けている。

【「(3) ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方に対する関心が高まっている。 ・日本国憲法をはじめとした法に対する関心が高まっている。 ・基本的人権を中心に、人間の尊重ということについて意欲的に追究している。 ・法の意義と法に基づく政治の大切さについて意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法に基づく政治により、国民の自由と権利が守られるということについて、多面的・多角的に考察している。 ・民主的な社会生活の在り方について、自由・権利と責任・義務の関係を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊重についての考え方と日本国憲法をはじめとした法に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 ・収集した資料の中から、法の意義や我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることなどについての学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 ・人間の尊重についての考え方や我が国の 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人間に保障されるべき基本的人権を中心にして、人間の尊重の考え方を理解し、その知識を身に付けている。 ・国民の自由及び権利は、国民の代表者によって構成されている議会で制定された法によって守られることを理解し、その知識を身に付けている。 ・法に基づく政治が民主政治の原理となっ

<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊重についての考え方から，民主的な社会生活について考えようとしている。 		<p>政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義などを追究し考察した過程や結果をまとめたり，説明したりしている。</p>	<p>ていることを理解し，その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国では日本国憲法が最高法規であり，日本国憲法に基づく政治によって，国民の自由と権利が守られていることを理解し，その知識を身に付けている。 ・基本的人権の理念が，人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であり，価値あるものであることを理解し，その知識を身に付けている。 ・基本的人権の理念は，現代の社会生活における人間の生き方の指針となると考えられることについて理解し，その知識を身に付けている。 ・国民主権とは，国の政治を最終的に決定する権限が国民にあることを意味していることについて理解し，その知識を身に付けている。 ・代表民主制においては，その権力が国民の代表者によって行使されることを理解し，その知識を身に付けている。 ・平和主義については，平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して，国の安全と生存を保持しようとする願い，国際紛争解決の手段としての戦争を放棄し，陸海空軍その他の戦力を保持しないことを決意したことについて理解し，その知識を身に付けている。 ・天皇が日本国及び日本国民統合の象徴であること及び天皇の行う国事行為の特色について理解し，その知識を身に付けている。
---	--	---	--

(6) 「(3) イ 民主政治と政治参加」

【学習指導要領の内容】

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深める。さらに、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治を推進するためには、公正な世論の形成と国民の政治参加が大切であることに気付かせる。その際、選挙の意義について考えさせる。

【「(3) イ 民主政治と政治参加」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
国や地方公共団体の政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとしている。	国や地方公共団体の政治に関して、議会制民主主義や選挙の意義について多面的・多角的に考察し、民主的な政治の在り方について様々な考え方や立場から公正に判断している。	国や地方公共団体の政治に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらまし、政党の役割、多数決の原理とその運用の在り方、法に基づく公正な裁判の保障について理解するとともに、公正な世論の形成と国民の政治参加の大切さに気付き、その知識を身に付けている。

【「(3) イ 民主政治と政治参加」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 国や地方公共団体における現実の政治に対する関心が高まっている。 自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方と、その考え方に基づく国や地方公共団体の政治の仕組みについて意欲的に追究している。 将来国政に参加する公民として、民主的な政治と政治参加の方法について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国民の代表者によって構成される議会で国民の意思を決定する議会制民主主義が我が国の政治の原則となっていることについて多面的・多角的に考察している。 選挙は国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であること、議会制民主主義を支えるものであることを踏まえ、正しい選挙が行われることの大切さについて、多面的・多角的に考察している。 人間を尊重し自由と権利を保障する民主的な政治の在り方について、現実の政治に対する様々な考え方や住民や国民などの立場から公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国や地方公共団体の政治の仕組みに関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 収集した資料の中から、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方と、その考え方に基づく国や地方公共団体の政治の仕組みについての学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方と、その考え方に基づく国や地方公共団体の政治の仕組みなどを追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治は、住民参加による住民自治が基本であることを理解し、その知識を身に付けている。 地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていることを理解し、その知識を身に付けている。 我が国の民主政治の仕組みとして、議会制民主主義の意義、議院内閣制の仕組み、裁判の働きなどについて理解し、その知識を身に付けている。 国会は、主権者である国民の代表者で構成されていること、また国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることを理解し、その知識を身に付けている。

		<ul style="list-style-type: none">・内閣については、我が国が議院内閣制を採用していることを理解し、その知識を身に付けている。・政党は、同じ政治上の主義・主張をもつ者により組織され、政策を示し多数の合意を得て政権を獲得しようとする団体であり、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることを理解し、その知識を身に付けている。・多数決が民主的な議決方法として用いられるには十分な説得と討論が必要であり、そのため言論の自由が保障されなければならないことを理解し、その知識を身に付けている。・多数決が正しく運営されるためには、反対意見や少数意見が十分に尊重される必要があることを理解し、その知識を身に付けている。・法に基づく公正な裁判によって社会の秩序が保たれ人権が守られていることを理解し、その知識を身に付けている。・司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることを理解し、その知識を身に付けている。・民主政治は、国民の意思に基づく政治、世論による政治であることに気付き、その知識を身に付けている。・国民の意思が国政や地方の政治に十分反映されるようになるためには、国民が主権者であるという自覚を深めることが大切であることに気付き、その知識を身に付けている。
--	--	--

(7) 「(3) ウ 世界平和と人類の福祉の増大」

【学習指導要領の内容】

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力が大切であることを認識させる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛の問題について考えさせるとともに、核兵器の脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、人類の福祉の増大を図り、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、地球環境、資源・エネルギー問題などについて考えさせる。

【「(3) ウ 世界平和と人類の福祉の増大」の評価規準】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
国際社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度が育つとともに、これからのよりよい社会を築くために解決すべき諸課題を考え続けようとする態度が育っている。	国際社会の諸問題から課題を見だし、世界平和の実現と人類の福祉の増大について、多面的・多角的に考察し、これからのよりよい社会の在り方について、様々な観点や立場から公正に判断している。	国際社会の諸問題に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。	世界平和の実現と人類の福祉の増大にかかわって、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力の大切さについて認識し、日本国憲法の平和主義について理解を深めるとともに、現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について理解し、その知識を身に付けている。

【「(3) ウ 世界平和と人類の福祉の増大」の評価規準の具体例】

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・世界平和の実現と人類の福祉の増大にかかわる国際社会の諸問題に対する関心が高まっている。 ・世界平和にかかわる問題を意欲的に追究している。 ・地球環境と資源・エネルギー問題などにかかわる課題を設け意欲的に追究している。 ・戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度が育ち、人間の生命の尊さ、平和の尊さを自覚している。 ・現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、地球環境、資源・エネルギー問題などについて考え続けようとする態度が育って 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の諸問題から世界平和にかかわる問題や、地球環境、資源・エネルギー問題などにかかわる課題を見いだしている。 ・平和主義を原則とする日本国憲法の下において、我が国の安全とアジアひいては世界の平和をいかにして実現すべきかの問題について、多面的・多角的に考察している。 ・人類の将来にわたる発展と自然との調和という観点から、地球環境の保全と資源・エネルギーの開発・利用を進めていくことについて多面的・多角的に考察している。 ・これからのよりよい社会の在り方について、世界的な視野と 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界平和にかかわる問題や地球環境、資源・エネルギー問題などに関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 ・収集した資料の中から、世界平和にかかわる問題や地球環境、資源・エネルギー問題などにかかわる課題を追究するために役立つ情報を適切に選択し活用している。 ・世界平和にかかわる問題や地球環境、資源・エネルギー問題などにかかわる課題を追究した過程や結果を図表化したり報告書にまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会において国家は、原則的に平等の地位を与えられており、すべての国家の主権が相互に尊重されなければならないことを理解し、その知識を身に付けている。 ・国家間の相互の協力や各国民の相互理解と協力が世界平和の実現と人類の福祉の増大にとって大切であることを理解し、その知識を身に付けている。 ・平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、国の安全と生存を保持しようとする願い、国際紛争解決の手段としての戦争を放棄し、陸海空軍その他の戦力を保持しないことを決意したことについて理解を

<p>いる。</p>	<p>地球的視点から、また住民、国民、人類など様々な立場から公正に判断している。</p>	<p>深め、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境汚染や自然破壊が地域や国家の問題であるとともに、地球規模の問題となり国際的な課題となっていることに気付き、その知識を身に付けている。 ・ 資源・エネルギー問題については、資源・エネルギーの有効な開発・利用とともに、資源循環型社会への転換を図るための省資源、省エネルギー及びリサイクルなどが必要であることに気付き、その知識を身に付けている。 ・ 地球環境問題や資源・エネルギー問題に対しては、国や地方公共団体の取組、地球規模での努力、国際協力や国際協調などが大切であることを理解し、その知識を身に付けている。
------------	--	---

第3 単元の評価に関する事例

ここでは、第1学年の地理的分野において指導と評価の工夫を行った事例「身近な地域」、第2学年の歴史的分野の事例「明治維新」、第3学年の公民的分野の事例「現代日本の歩みと私たちの生活」についてそれぞれ紹介する。

地理的分野

単元名 「身近な地域」(13時間)(第1学年 2月)

1 単元の目標

- (1) 身近な地域に対する関心を高め、地理的事象を基にして設定した課題を意欲的に追究させ、身近な地域の特色をとらえようとする態度を養う。
- (2) 身近な地域の地理的事象を基にして課題を設定させ、それを地域の環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究させるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察させる。
- (3) 身近な地域に関する観察や調査、縮尺の大きな地図や統計その他の資料の収集に取り組み、学習に役立つ情報を適切に選択して活用させるとともに、身近な地域の特色を追究し考察した過程や結果を地図化させたり報告書などにまとめさせたり、発表させたりする。
- (4) 身近な地域の特色とともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解させ、それらの知識を身に付けさせる。

2 単元の評価規準

	内容のまとめりごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準
ア 社会的 事象 への 関心 ・ 意欲 ・ 態度	身近な地域に対する関心を高め、その観察や調査などに意欲的に取り組み、身近な地域の特色をとらえようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域に広がる景観などに対する関心が高まっている。 ・ 身近な地域の諸事象の観察や調査などの活動に意欲的に取り組んでいる。 ・ 身近な地域の地理的事象から見いだした課題を基に身近な地域の特色をとらえ、地域の発展について考えようとしている。 	<p>身近な地域の諸事象から分布図に描きたい素材を見だし、それをワークシートに記入している。</p> <p>課題を追究するための観察や調査に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>課題を追究するための観察や調査に取り組んだ際の自分の意欲や関心などの状況をワークシートの「自己評価」欄に記入している。</p> <p>身近な地域の特色を踏まえて地域の発展について考えたことをワークシートに記入している。</p>
イ 社会的 な 思考 ・ 判断	身近な地域の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、地理的事象として見いだしている。 ・ 身近な地域の地理的事象を基にして適切な課題を設定している。 ・ 身近な地域の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目して多面的・多角的に考察している。 ・ 市町村規模の地域的特色をとらえる課題を追究するた 	<p>素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性をワークシートに記入している。</p> <p>素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性を基に、身近な地域の特色をとらえるための課題を設定し、それをワークシートに記入している。</p> <p>地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわり（地域的特色をとらえる視点）に着目して課題にかかわる地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想し、それをワークシートに記入している。</p> <p>予想を検証するための調査計画をワークシートに記入している。</p> <p>地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかわりに着目して予想を検</p>

		めの視点や方法を考察し、適切に選択している。	証し、その過程や結果を発表用の資料にまとめている。 自他のグループの発表を身近な地域の特色を鮮明にとらえているかどうかという観点から評価し、その内容を発表会記録表の「自己評価」欄と「相互評価」欄に記入している。 授業で使われなかった市町村規模の地域に関する資料を基に、その地域的特色を追究し考察させるペーパーテストに対して、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して解答している。
ウ	身近な地域に関する観察や調査、地図や統計その他の資料の収集を行い、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、身近な地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域に関する野外での観察や地域調査、縮尺の大きな地図や統計その他の資料の収集を行っている。 ・身近な地域的特色をとらえるために、景観の観察、縮尺の大きな地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 ・身近な地域的特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり、発表したりしている。 	<p>素材に関して収集した情報を縮尺の大きな地図やワークシートに記入している。</p> <p>縮尺の大きな地図を用いて素材に関する分布図を描いている。</p> <p>課題を追究するために収集した情報をワークシートに記入している。</p> <p>観察や調査の結果を地図やグラフなどに表し、予想の検証に役立つ情報を選択して発表用の資料を作成している。</p> <p>身近な地域的特色に関する課題を追究し考察した過程や結果を地図やグラフなどを活用して発表している。また、自他のグループの発表をわかりやすく説明しているかどうかという観点から評価し、その内容を発表会記録表の「自己評価」欄と「相互評価」欄に記入している。</p>
エ	身近な地域的特色とともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目してとらえた身近な地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。 	<p>学習の結果理解した内容として、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目してとらえた身近な地域的特色をワークシートに記入している。</p> <p>学習の結果理解した内容として、市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法などをワークシートに記入している。</p> <p>地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目してとらえた身近な地域的特色について理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。</p> <p>市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法などについて理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。</p>

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

- 第一次「分布図の面白さを知ろう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
- 第二次「分布図を描くために観察や調査に出かけよう」・・・・・・・・・・・・（2時間）
- 第三次「分布図を描き、空間的な規則性や傾向性を見いだそう」・・・・・・・・（1時間）
- 第四次「身近な地域的特色をとらえるための課題を考えよう」・・・・・・・・（2時間）
- 第五次「身近な地域的特色に関する課題を追究するための調査計画を立てよう」・・・・（1時間）
- 第六次「課題を追究するために観察や調査に出かけよう」・・・・・・・・・・・・（2時間）
- 第七次「観察や調査の結果をまとめよう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
- 第八次「観察や調査の結果を発表しよう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
- 第九次「身近な地域的特色とその調査方法をまとめよう」・・・・・・・・・・・・（1時間）

(2) 指導と評価の展開例

次 程	ね ら い ・ 学 習 活 動	単元の評 価規準と の関連	評 価 方 法 等
第一次 (1時間 扱い)	<p>ねらい 分布図の面白さを実感させ、身近な地域の諸事象を分布図に表そうとする意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分布図の魅力を知る。 ・分布図に描きたい素材をあげる。 <p><素材例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機，公衆電話，放置自転車 ・信号機，交通標識，カーブミラー ・屋敷林のある家，犬小屋のある家 ・コンビニエンスストア，飲食店 ・駐車場，ガソリンスタンド ・水田，畑，果樹園 ・道路別の人や自動車の通行量 ・お店や施設の利用者の数や居住地 等 <ul style="list-style-type: none"> ・縮尺の大きな地図を用いて分布図に描く範囲を決める。 	アの	身近な地域の諸事象から分布図に描きたい素材をいくつかあげているかを，ワークシートの記入内容で確認する（関心）。
第二次 (2時間 扱い)	<p>ねらい 自分が選んだ素材の観察や調査に取り組ませ，分布図を描くために必要な情報を収集させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や調査の方法やマナーを知る。 ・校外に出て観察や調査を行う。 	ウの	素材に関してどのような情報を収集しているかを，観察や調査で用いた縮尺の大きな地図やワークシートの記入内容で点検する（技能）。
第三次 (1時間 扱い)	<p>ねらい 縮尺の大きな地図を用いて素材に関する分布図を描かせ，それを基に空間的な規則性や傾向性を見いださせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縮尺の大きな地図を用いて素材に関する分布図を描く。 ・素材に関する分布図から空間的な規則性や傾向性を見いだす。 	ウの イの	素材に関して描いた分布図を点検する（技能・表現）。 素材に関する分布図からどのような空間的な規則性や傾向性を見いだしているかを，ワークシートの記入内容で分析する（思考）。
第四次 (2時間 扱い)	<p>ねらい 素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性を発表させ，それを基に身近な地域の特色をとらえるための課題を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性を発表する。 ・自他の発表内容を基に，身近な地域の特色をとらえるための課題を設定する。 ・学級全体で適切な課題を複数設定し，課題ごとにグループを編成する。 	イの	身近な地域の特色をとらえるために，空間的な規則性や傾向性を基にしてどのような課題を設定しているかを，ワークシートの記入内容で分析する（思考）。
第五次 (1時間 扱い)	<p>ねらい グループ毎に身近な地域の特色に関する課題を追究するための視点や方法を考えさせ，調査計画を立てさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を追究するための視点を考え，課題にかかわる地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想する。 ・予想を検証するための方法を考え， 	イの イの	課題にかかわる地理的事象を成り立たせている背景や要因について，地域的特色をとらえる視点に着目して予想を立てているかどうかを，ワークシートの記入内容で分析する（思考）。 予想を検証するために，どのような調査計画を立てているかを，ワークシートの記入

<p>第六次 (2時間 扱い)</p>	<p>調査計画を立てる。</p> <p>ねらい グループ毎に身近な地域の観察や調査に取り組み、課題を追究するための情報を収集させる。 ・校外に出て観察や調査を行う。 ・調査計画に沿って課題を追究するための情報を収集する。</p>	<p>アの アの ウの</p>	<p>内容で点検する(思考)。</p> <p>観察や調査に対する取組を観察する(意欲)。 観察や調査にどのように取り組んでいるかを、ワークシートの「自己評価」欄の記入内容、現地で収集した資料で確認する(意欲)。 調査計画に沿ってどのような情報を収集しているかを、ワークシートの記入内容、現地で収集した資料で点検する(技能)。</p>
<p>第七次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい グループ毎に観察や調査の結果を基に予想の検証を行わせるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめさせる。 ・観察や調査の結果を基に予想の検証を行う。 ・身近な地域に関する課題を追究し考察した過程や結果をまとめ、発表の準備をする。</p>	<p>イの ウの</p>	<p>地域的特色をとらえる視点に着目して予想を検証しているかどうかを、発表用にまとめた資料の内容で点検する(思考)。 予想を検証するために、どのような地図やグラフなどを描いて役立つ情報を選択しているかを、発表用にまとめた資料の内容で点検する(技能)。</p>
<p>第八次 (1時間 扱い)</p>	<p>ねらい グループ毎に課題を追究し考察した過程や結果を発表させ、身近な地域の特色とそれを追究するためのより適切な視点や方法を考えさせる。 ・身近な地域の特色に関する課題を追究し考察した過程や結果を発表したり、発表を聞いて質問したりする。 ・発表を聞いて、身近な地域の特色とそれを追究するためのより適切な視点や方法を考える。</p>	<p>ウの イの</p>	<p>課題を追究し考察した過程や結果をどのように発表しているかを、行動の観察、発表会記録表の「自己評価」欄及び「相互評価」欄の記入内容で点検する(表現)。 自他のグループの発表内容をどのように評価しているかを、発表会記録表の「自己評価」欄と「相互評価」欄の記入内容で点検する(思考)。</p>
<p>第九次 (1時間 扱い)</p>	<p>ねらい 今回の観察や調査を振り返らせ、身近な地域の特色をまとめ、地域の発展について考えさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを整理させる。 ・各グループの発表内容を基に、課題の追究を通して明らかになった身近な地域の特色をまとめ、地域の発展について考える。 ・各グループの発表内容を基に、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを整理する。</p>	<p>エの エの アの</p>	<p>身近な地域の特色についてどのように理解しているかを、ワークシートの記入内容で確認する(理解)。 市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法についてどのように理解しているかを、ワークシートの記入内容で確認する(理解)。 身近な地域の特色を踏まえて地域の発展についてどのように考えているかを、ワークシートの記入内容で点検する(態度)。</p>
<p>*</p>	<p>ペーパーテストの実施(中間・期末に学習内容に沿ってテストする。または単元終了後に小テストを実施する。)</p>	<p>イの エの エの</p>	<p>授業で使われなかった市町村規模の地域に関する資料から、その地域的特色を追究し考察した内容をペーパーテストで確認する(思考)。 身近な地域の特色について理解し身に付けた知識をペーパーテストで確認する(知識・理解)。 市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法について理解し身に付けた知識をペーパーテストで確認する(知識・理解)。</p>

(注)「指導と評価の展開例」中の 印の番号は、前ページの学習活動における具体的評価規準の番号と一致している。

参考資料

< 単元「身近な地域」で使用するワークシートの工夫例 >

	ワークシート(個人用)	年 組 番 名 前																					
アの	<p>1 身近な地域の様子を思い浮かべて、分布図に描けそうな素材をできるだけたくさん書き出してみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		第一次																				
イの	<p>2 作成した分布図から素材の分布の特徴(空間的な規則性や傾向性)を見つけよう。また、そのような特徴がみられる理由を考えて書き出してみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 40%;">()の分布の特徴</th> <th style="width: 55%;">考えられる理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		()の分布の特徴	考えられる理由											第二次								
	()の分布の特徴	考えられる理由																					
イの	<p>3 みんなの発表内容を参考にして、身近な地域の特徴をとらえるための課題を設定してみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">課 題</th> <th style="width: 60%;">設 定 し た 理 由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	課 題	設 定 し た 理 由				第四次																
課 題	設 定 し た 理 由																						
イの	<p>4 グループで取り組む課題を明記しておこう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <p>5 課題を追究するための予想を立ててみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">予 想</th> <th style="width: 50%;">理 由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>2</td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>3</td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		予 想	理 由	1			2			3				第五次								
	予 想	理 由																					
1																							
2																							
3																							
イの	<p>6 予想を検証するための調査計画を立てよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">調査項目</th> <th style="width: 10%;">日 時</th> <th style="width: 10%;">場 所</th> <th style="width: 10%;">担 当 者</th> <th style="width: 50%;">調査方法ほか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	調査項目	日 時	場 所	担 当 者	調査方法ほか																	第一次
調査項目	日 時	場 所	担 当 者	調査方法ほか																			
アの	<p>7 調査活動への取組を自分なりに振り返ってみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;"> (1) あてはまるものを で囲んでみよう。 自分の分担として、具体的に何を行えばよいのかがわかっていった。 計画通りに必要な資料を入手することができた。 計画にはなかった新たな資料を入手することができた。 収集した資料を活用できるよう工夫して整理した。 観察や調査などに積極的に取り組むことができた。 </td> <td style="width: 10%; text-align: center;">はい</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">ある程度</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">いいえ</td> </tr> <tr> <td> </td> <td style="text-align: center;">はい</td> <td style="text-align: center;">ある程度</td> <td style="text-align: center;">いいえ</td> </tr> <tr> <td> </td> <td style="text-align: center;">はい</td> <td style="text-align: center;">少し</td> <td style="text-align: center;">いいえ</td> </tr> <tr> <td> </td> <td style="text-align: center;">はい</td> <td style="text-align: center;">ある程度</td> <td style="text-align: center;">いいえ</td> </tr> <tr> <td> </td> <td style="text-align: center;">はい</td> <td style="text-align: center;">ある程度</td> <td style="text-align: center;">いいえ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 調査活動に取り組んで、感じたことや気付いたことを書き止めておこう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	(1) あてはまるものを で囲んでみよう。 自分の分担として、具体的に何を行えばよいのかがわかっていった。 計画通りに必要な資料を入手することができた。 計画にはなかった新たな資料を入手することができた。 収集した資料を活用できるよう工夫して整理した。 観察や調査などに積極的に取り組むことができた。	はい	ある程度	いいえ		はい	ある程度	いいえ		はい	少し	いいえ		はい	ある程度	いいえ		はい	ある程度	いいえ		第六次
(1) あてはまるものを で囲んでみよう。 自分の分担として、具体的に何を行えばよいのかがわかっていった。 計画通りに必要な資料を入手することができた。 計画にはなかった新たな資料を入手することができた。 収集した資料を活用できるよう工夫して整理した。 観察や調査などに積極的に取り組むことができた。	はい	ある程度	いいえ																				
	はい	ある程度	いいえ																				
	はい	少し	いいえ																				
	はい	ある程度	いいえ																				
	はい	ある程度	いいえ																				

4 観点別評価の進め方

「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例及び「努力を要する」状況（C）と評価された生徒がいる場合の指導の手だての例を以下にまとめた。

	学習活動における具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への指導の手だて
ア 社会的 事象への 関心・ 意欲・ 態度	身近な地域の諸事象から分布図に描きたい素材を見だし、それをワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、身近な地域の諸事象から分布図に描きたい素材を複数見だしていることが判断できた。	自宅から学校までの通学路沿いにどのようなお店や施設があるかを思い起こさせるなどして、生徒自ら分布図に描きたい素材を見いださせる。
	課題を追究するための観察や調査に意欲的に取り組んでいる。	課題を追究するための情報を調査計画に沿って収集しており、さらに追究に役立つ情報を現地で発見し収集しようとしていると判断できた。	グループで立てた調査計画を再確認させ、現地における観察や調査のポイントについて具体的なアドバイスを行う。
	課題を追究するための観察や調査に取り組んだ際の自分の意欲や関心などの状況をワークシートの「自己評価」欄に記入している。	ワークシートの「自己評価」欄の記入内容から、現地において進んで情報を収集するなど観察や調査に意欲的に取り組んでおり、さらに身近な地域の諸事象を注意深く観察するなど関心が高まっていることが判断できた。	課題を追究するための観察や調査に取り組んだ際の自分の意欲や関心が低かったのはなぜかを考えさせるとともに、課題の設定の仕方、観察や調査の方法などについて再検討させる。
	身近な地域の特色を踏まえて地域の発展について考えたことをワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、身近な地域の特色を踏まえて地域の発展のために具体的に提案したり行動したりしようとしていることが判断できた。	追究の結果明らかになった身近な地域の特色についての自他のグループの発表内容を再確認させ、それらを踏まえて地域の課題や将来像について考えさせる。
イ 社会的な 思考・ 判断	素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性をワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、素材に関する分布図から空間的な規則性や傾向性を見いだしており、さらに縮尺の大きな地図から読み取れる様々な情報と関連付けて考えていることが判断できた。	素材に関する分布図を再度注意深く観察させ、素材の分布状況を空間的な規則性や傾向性、密度の高低、偏りの有無などに着目して読み取らせる。
	素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性を基に、身近な地域の特色をとらえるための課題を設定し、それをワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、素材に関する分布図から見いだした複数の空間的な規則性や傾向性を比較し関連付けて、身近な地域の特色をとらえるための課題を設定していることが判断できた。	素材に関する分布図から見いだした空間的な規則性や傾向性についての自他の発表内容を再確認させ、それらを基に身近な地域の特色をとらえるための課題を考えさせる。
	地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわり（地域的特色をとらえる視点）に着目して課題にかかわる地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想し、それをワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して、さらに他地域と比較したり時間的経過を考慮したりして、課題にかかわる地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想していることが判断できた。	身近な地域の特色をとらえるための視点にはどのようなものがあるかを再確認させ、それらに着目して自分たちのグループで設定した課題にかかわる地理的事象を成り立たせている背景や要因を予想させる。
	予想を検証するための調査	ワークシートの記入内容から、予想を検	自分たちのグループではどの

	計画をワークシートに記入している。	証するための様々な方法を考え、それらの中から選択して具体的かつ効率的な調査計画を立てていることが判断できた。	ような課題に対してどんな予想を立てたかを再確認させ、その予想を検証するためにはどんな資料をどのように収集すればよいかを具体的に考えさせる。
	地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して予想を検証し、その過程や結果を発表用の資料にまとめている。	発表用の資料の内容から、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して、さらに他地域と比較したり時間的経過を考慮したりして、予想を検証していると判断できた。	身近な地域の特色をとらえるための視点にはどのようなものがあるかを再確認させ、それらを踏まえて予想を検証するにはさらにどのような調査が必要となるかを検討させる。
	自他のグループの発表を身近な地域の特色を鮮明にとらえているかどうかという観点から評価し、その内容を発表会記録表の「自己評価」欄と「相互評価」欄に記入している。	発表会記録表の「自己評価」欄と「相互評価」欄の記入内容から、自他のグループの発表から身近な地域の特色を鮮明にとらえている内容を見いだしており、さらにそのように考えた理由を追究の視点や方法を踏まえながら指摘していると判断できた。	自他のグループの発表内容を再確認させ、それらの中で身近な地域の特色を鮮明にとらえているものはどれかを考えさせる。
	授業で使われなかった市町村規模の地域に関する資料を基に、その地域的特色を追究し考察させるペーパーテストに対して、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して解答している。	ペーパーテストの解答状況から、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して、さらに他地域と比較したり時間的経過を考慮したりして、出題された市町村の地域的特色を追究し考察していることが判断できた。	個別に授業で考察した内容を整理させ、再度ペーパーテストの問題を解かせる。
ウ 資料活用 の技能・ 表現	素材に関して収集した情報を縮尺の大きな地図やワークシートに記入している。	縮尺の大きな地図やワークシートの記入内容から、素材の位置に関する情報を収集しており、さらに素材の特徴に関する情報を収集していることが判断できた。	分布図を描くために必要となる情報の種類やその収集方法について再度指導し、素材に関して必要な情報を収集させる。
	縮尺の大きな地図を用いて素材に関する分布図を描いている。	縮尺の大きな地図を用いて素材に関する分布図を描いており、さらに素材の記号化や着色など表現方法を工夫していると判断できた。	分布図を描くことができなかつた理由を確認した上で、縮尺の大きな地図を用いて分布図を描く方法について再度指導し、素材に関する分布図を作成させる。
	課題を追究するために収集した情報をワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、課題を追究するための情報を調査計画に沿って収集しており、さらに追究に役立つ情報を現地で発見し収集していることが判断できた。	課題を追究するために必要となる情報の種類やその収集方法についてアドバイスを行い、必要な情報を再度収集させる。
	観察や調査の結果を地図やグラフなどに表し、予想の検証に役立つ情報を選択して発表用の資料を作成している。	発表用の資料の内容から、観察や調査の結果を地図やグラフなどに表し、それらと比較し関連付けて、予想の検証に役立つ情報を選択して発表用の資料を作成していると判断できた。	観察や調査の結果を地図やグラフなどに表す方法や地図やグラフなどから予想の検証に役立つ情報を選択する方法についてアドバイスを行い、発表用の資料を作成させる。
	身近な地域の特色に関する	身近な地域の特色に関する課題を追究し	自分たちのグループは身近な

	課題を追究し考察した過程や結果を地図やグラフなどを活用して発表している。また、自他のグループの発表をわかりやすく説明しているかどうかという観点から評価し、その内容を発表会記録表の「自己評価」欄と「相互評価」欄に記入している。	考察した過程や結果を地図やグラフなどを活用して発表しており、さらに聞き手を注目させる発表方法を工夫していると判断できた。	地域の特色を明らかにするために、どのような課題を設定してどのような予想を立て、それをどのような方法で追究し、その結果何が検証できたのかを再度整理させるとともに、地図やグラフなどの活用方法について再確認させる。
工 社 会 的 事 象 に つ い て の 知 識 ・ 理 解	学習の結果理解した内容として、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目してとらえた身近な地域の特色をワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、身近な地域の特色について地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して理解しており、さらに他地域と比較したり時間的経過を考慮したりして理解していると判断できた。	個別にこの単元の学習内容を整理させ、身近な地域の特色についてまとめさせる。
	学習の結果理解した内容として、市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法をワークシートに記入している。	ワークシートの記入内容から、市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法を理解しており、さらに地理的なまとめ方や発表の方法を理解していると判断できた。	個別にこの単元の学習内容を整理させ、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などについてまとめさせる。
	地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目してとらえた身近な地域の特色について理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。	ペーパーテストの解答状況から、身近な地域の特色について地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して理解し、その知識を身に付けており、さらに他地域と比較したり時間的経過を考慮したりして理解し、その知識を身に付けていると判断できた。	個別にこの単元の学習内容を整理させ、身近な地域の特色についてまとめさせる。
	市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法などについて理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。	ペーパーテストの解答状況から、市町村規模の地域的特色を地域に広がる景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法を理解し、その知識を身に付けており、さらに地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けていると判断できた。	個別にこの単元の学習内容を整理させ、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法などについてまとめさせる。

(注)「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への指導の手だてについては、授業中適宜行ったり、授業後に行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 重み付けについて

観点別評価を行う際に留意すべき点として、評価方法によって重み付けを考慮することが考えられる。例えば、各単元で行う評価の方法や手段としては、ペーパーテストによる評価、日常の授業場面における生徒の学習活動の観察、生徒が作成した地図などの作品の分析、生徒の発表内容の分析、ワークシートや報告書に書かれた内容の分析など様々なものが考えられる。そこで一つの観点に対して複数の評価方法・手段がある場合は、それぞれの特性に応じてその評価結果に対する重み付けを事前に決めて評価を行うことなどが考えられる。

(2) 重み付けの適用例

<「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点>

地理的分野の事例として取り上げた単元「身近な地域」の「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点については、生徒の内面を探らないと分からないことが多い。そこで、下表に示した評価方法のうち、生徒の内面にある関心・意欲・態度を外に示すことを求めるワークシートの記入内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが

考えられよう。

そこで例えば、Tさんが評価規準の がA， がB， がC， がAの評価であった場合の総括は次のとおりである。下表のようにワークシートによる評価は60%（6割）の割合となっており、これを、 の各評価規準に30%（3割）ずつ分けることとする。これにより、各評価規準の比率は：
：： = 3：2：2：3となり、この比率に応じ集計を行う。Tさんの評価結果をこの比率に当てはめると が3A， が2B， が2C， が3Aとなる。これを集計するとAが6個， Bが2個， Cが2個となる。

この集計結果に対して、事前に「Aが全体の6割以上を占める場合この観点の総括をAとし、Cが全体の6割以上を占める場合をCとし、それ以外の場合をBとする。」と決定しているとき、本單元におけるTさんの「関心・意欲・態度」の評価は「十分満足」(A)となった。

「社会的な事象への関心・意欲・態度」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）			
ワークシート（ ）	自己評価（ ）	行動の観察（ ）	合計
60%	20%	20%	100%

（表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

他の3観点も同様の方法で評価を考慮することができるので、以下の観点については重み付けだけについて述べることにする。

< 「社会的な思考・判断」の観点 >

「社会的な思考・判断」の観点では、「思考・判断」が「関心・意欲・態度」と同様に生徒の内面の活動であるので、思考・判断の過程や結果を記述させるようなワークシートや発表用の資料の内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。また、授業では扱わなかった市町村規模の地域に関する資料を用いて思考・判断させるようなペーパーテストによる評価結果に対する重み付けを、他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることも考えられよう。

「社会的な思考・判断」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）				
ワークシート（ ）	発表用の資料（ ）	自己評価・相互評価（ ）	ペーパーテスト（ ）	合計
40%	20%	10%	30%	100%

（表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

< 「資料活用の技能・表現」の観点 >

「資料活用の技能・表現」の観点では、この單元が、「市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる」（学習指導要領）ことが求められていることから、生徒が作成した分布図の分析や身近な地域に関する課題を地図やグラフなどを活用して追究した過程や結果が記入されている資料を用いた発表内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

「資料活用の技能・表現」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）				
ワークシート（ ）	分布図（ ）	発表（ ）	自己評価・相互評価（ ）	合計
20%	30%	40%	10%	100%

（表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

< 「社会的な事象についての知識・理解」の観点 >

「社会的な事象についての知識・理解」の観点では、理解内容を幅広くとらえることができるペーパーテストによる評価結果の重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

「社会的な事象についての知識・理解」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）		
ワークシート（ ）	ペーパーテスト（ ）	合計
20%	80%	100%

（表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

ここでは評価方法・手段に重み付けを行い、それをもとに單元ごとの観点別評価の総括を行った例を述べたが、この外にも、様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

歴史的分野

単元名 「明治維新」(6時間)(第2学年 9月)

1 単元の見積

- (1) 明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化に対する関心を高めさせ、意欲的に追究させる。
- (2) 明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化について多面的・多角的に考察させ、公正に判断させる。
- (3) 明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化に関する資料を収集させ、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめさせ、発表させる。
- (4) 明治維新の経緯のあらしを、世界の動きを背景に理解させるとともに、政府の諸改革によって短期間のうちに近代国家の基礎が整えられたことに気付かせ、その知識を身に付けさせる。

2 単元の評価規準

	内容のまとめごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準
ア 社会的 事象 への 関心 ・ 意欲 ・ 態度	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の精神を養い国民としての自覚をもとうとする。	・明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化に対する関心を高め、意欲的に追究している。	新政府の成立から明治10年ころまでの政治の動きのあらしや諸改革について、関心をもったことをノートに記入している。 諸改革や文明開化がもたらした人々の生活の大きな変化について、気付いたことや疑問をノートに記入している。 諸改革の内容や目的、影響などについて、追究したいことをノートなどに記入している。 人々の生活の大きな変化やその背景について、追究したいことをワークシートに記入し発表している。
イ 社会的 な 思考 ・ 判断	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	・明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化に関する学習課題をワークシートなどに記入している。 明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化に関する学習課題の追究方法を明らかにし、学習計画を立て、それをワークシートなど記入している。 a 新政府の方針や廃藩置県目的、身分制度の廃止、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交について、近代国家の基礎が整えられたことや外国の動きなどの視点から多面的・多角的に考察し、ワークシートなどに記入している。 b 学制・兵制・税制の改革の目的や影響について、近代国家の基礎が整えられたことや政府・国民などの視点から多面的・多角的に考察し、ノートなどに記入している。 c 人々の生活の大きな変化について、新政府の諸改革や文明開化、江戸時代との比較などの視点から多面的・多角的に考察し、ワークシートなどに記入している。 明治維新の経緯のあらしや人々の生活の大きな変化について考察させるペーパーテストの問いに対し、授業での成果をもとに解答している。

ウ 資料 活用 の 技能 ・ 表現	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたリ、説明したりしている。	・明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する絵画、グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたリ、説明したりしている。	a 新政府の方針や廃藩置県、身分制度の廃止、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交に関する資料を収集し、必要な情報を読み取り、ワークシートなどに記入している。 b 学制・兵制・税制の改革に関する資料を収集し、必要な情報を読み取り、ノートなどに記入している。 c 人々の生活の大きな変化が分かる資料を収集し、その変化を読み取り、ワークシートなどに記入している。 新政府の諸改革の内容、目的、影響や人々の生活の変化を報告書などにまとめている。 新政府の諸改革の内容、目的、影響や人々の生活の変化を発表している。
エ 社会 的 事 象 に つ い て の 知 識 ・ 理 解	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きを理解し、その知識を身に付けている。	・明治維新の経緯のあらましを、世界の動きを背景に理解するとともに、近代国家の基礎が整えられたことに気付き、その知識を身に付けている。	新政府の方針や廃藩置県、身分制度の廃止、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交の内容や目的について理解し、その知識を身に付けている。 学制・兵制・税制の改革の内容、目的、影響について理解し、その知識を身に付けている。 人々の生活の大きな変化とその背景について理解し、その知識を身に付けている。 明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化について理解を問うペーパーテストに対し、授業での成果をもとに解答している。

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

- 第一次「単元の概観と課題の設定」…………… (1時間)
- 第二次「仮説の設定と追究計画の作成」…………… (1時間)
- 第三次「課題の追究」…………… (2時間)
- 第四次「発表資料の作成」…………… (1時間)
- 第五次「追究結果の発表とまとめ」…………… (1時間)

(2) 指導と評価の展開

次程	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連	評価方法等
一次 (1時間 扱い)	<p>ねらい 明治維新における政治や社会、生活の変化などに対する関心を高めさせ、学習課題を設定させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活の変化を、絵画(錦絵)から読み取り、発表する。 ・明治維新の経緯を教科書の記述や年表などからまとめ、自分なりの年表を作成する。 ・明治維新の経緯について、関心を持ったことをノートなどにまとめる。 <p>・人々の生活の変化について、気付いたこ</p>	<p>アの</p> <p>アの</p>	<p>明治維新の経緯について興味・関心を持ったことをノートなどに記入させ、分析する。(関心)</p> <p>人々の生活の変化について気付いた</p>

	<p>とや疑問に思ったことなどをノートなどにまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表された気付きや疑問を基に話し合い、学習課題を明らかにする。 <p>(学習課題の例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(大課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 新政府はなぜ次々に新しい政策を実行したか。 <p>(中課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 版籍奉還や廃藩置県の目的は何か。 * 身分制度はどのように廃止されたか。 * 我が国の領土はどのようにして画定したか。 * 新政府はなぜ教育に力を注いだか。 * 兵制の改革の目的は何か。 * 地租改正の内容と目的は何か。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> * 諸政策や文明開化の政策により人々の生活は江戸時代と比べてどのように変化したか。 </div>	イの	<p>ことや疑問などを記入したノートなどや発表を分析する。(関心)</p> <p>単元の目標に迫ることのできる学習課題を見いだしているかを、発言によりみる。(思考)</p>
<p>二次 (1時間 扱い)</p>	<p>ねらい</p> <p>学習課題に対する仮説を設定させるとともに追究方法を明らかにさせ、学習計画を立てさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が解決したい課題を決め、仮説を考える。 ・同じ課題を選択した友達同士でグループを編成するとともに、各自の仮説を基にグループで話し合い、仮説を高める。 ・課題の追究方法を話し合うとともに、追究計画をワークシートなどに立案する。 	イの	<p>課題の追究方法や計画をワークシートなどに記入させ、分析する。(思考)</p>
<p>三次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい</p> <p>課題を追究させ、明治維新の諸改革の内容や目的、影響と生活の大きな変化の様子や背景をとらえさせる。(課題追究の事例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>以下の事例においては、グループごとに課題を追究させる方法や、生徒に1事例を追究させ他は教師が説明する方法など、多様な指導が考えられる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・五箇条の御誓文や版籍奉還、廃藩置県の内容を調べたり、目的を考えたりしてノートなどにまとめる。 ・廃藩置県により自分たちが住んでいる都道府県に起きた変化を、歴史地図から読み取ったり、資料を調べたりしてノートなどにまとめる。 ・身分制度の廃止とその問題点について調べ、ノートなどにまとめる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交を調べ、略地図に表す。 ・琉球の問題や北海道開拓について調べ、ワークシートや略地図などにまとめる。 ・ロシアと領土を画定したり、中国や朝鮮と外交関係を結んだりした理由を考え、ワークシートなどにまとめる。 </div>	<p>アの</p> <p>イの a</p> <p>ウの a</p>	<p>諸改革の内容や目的、影響などについて、追究したことをノートなどに記入させ、分析する。(意欲)</p> <p>新政府の方針や廃藩置県の目的、身分制度の廃止、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交とその背景について考察してワークシートに記入させ、分析する。(思考)</p> <p>課題の追究に必要な資料を収集し、活用できているかを、観察やワークシートなどの分析によりみる。(技能)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・錦絵や当時の教科書などから，当時の学校や授業の様子を調べ，ノートなどにまとめる。 ・就学率の推移のグラフや資料などを活用して，学制改革の目的と影響を考え，ノートなどにまとめる。 ・校区にある小学校の歴史を調べる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・徴兵令の内容や徴兵令に対する国民の動きを調べ，ノートなどにまとめる。 ・兵制の改革の目的と影響について考えノートなどにまとめる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・地租改正の内容と地租改正に対する農民の動きを調べ，ノートなどにまとめる。 ・地租改正による政府収入の変化のグラフなどを活用して地租改正の目的を考え，ノートなどにまとめる。 	<p>アの</p> <p>イの b</p> <p>ウの b</p>	<p>諸改革の内容や目的，影響などについて，追究したことをノートなどに記入させ，分析する。（意欲）</p> <p>学制・兵制・税制の改革の目的や影響について政府や国民などの立場から考察してノートなどに記入させ，分析する。（思考）</p> <p>課題の追究に必要な資料を収集し，活用できているかを，観察やノートなどの分析によりみる。（技能）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・錦絵や挿し絵などから，新しい文化を読み取り，ワークシートなどにまとめる。 ・江戸時代と比較した人々の生活の変化や，新しい思想の内容について調べ，ワークシートなどにまとめる。 ・人々の生活が大きく変化した背景について考え，ワークシートなどにまとめる。 	<p>アの</p> <p>イの c</p> <p>ウの c</p>	<p>人々の生活の大きな変化やその背景について，追究したことをワークシートなどに記入させ，分析する。（意欲）</p> <p>人々の生活の大きな変化を新政府の諸改革や文明開化，江戸時代との比較などの視点から考察してワークシートなどに記入させ，分析する。（思考）</p> <p>人々の生活の大きな変化が分かる資料を収集し，その変化を読み取っているかを，観察やワークシートなどの分析によりみる。（技能）</p>
四次 (1時間 扱い)	<p>ねらい</p> <p>課題を追究した過程や結果を分かりやすく報告書や発表資料などにまとめさせる。(まとめる際，以下の事項に留意させる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題選択の理由を明らかにする。 ・課題追究の過程と結果を明確にする。 ・追究結果について感想や批評を述べる。 ・新たに生まれた課題や疑問を述べる。 ・図表やグラフ，イラストなどを活用する。 	ウの	<p>追究の過程や結果を報告書や発表資料にまとめさせ，どのような考察を行ったかを，分析する。（表現）</p>
五次 (1時間 扱い)	<p>ねらい</p> <p>明治維新の経緯のあらましを理解させ，諸改革により近代国家の基礎が整えられたことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書や発表資料を活用して，追究の過程や結果を発表する。 ・発表を聞いて分かったことをノートなどにまとめる。 ・近代国家を形成していった政府や人々の気持ちを想像しながら，明治維新のもつ意義を考え，ノートに感想を書く。 	<p>ウの</p> <p>エの</p> <p>エの</p> <p>エの</p>	<p>発表の様子や発表資料を分析する。（表現）</p> <p>明治維新の経緯のあらましについて理解したことや，近代国家の基礎が整えられたことについて気付いたことを，ノートなどに記入させ，分析する。（知識・理解）</p>
*	<p>ペーパーテストなどの実施 (単元ごとの小テストや定期テストを行う)</p>	<p>イの</p> <p>エの</p>	<p>授業で理解した内容や授業で身に付けた思考力などを表出できるかを，ペーパーテストなどの分析によりみる。（思考・判断，知識・理解）</p>

(注)「指導と評価の展開例」中の 印の番号は，前ページの学習活動における具体的評価規準の番号と一致している。

参考資料

< 単元「明治維新」ワークシート例 >

東アジアの国々との関係	関連	次程
<p>(1) ~ の [] に国名を入れましょう</p> <p>(2) 日本とそれぞれの国との関係を < > に入れましょう</p> <p>(3) 日本の領土を着色しましょう</p> <p>(4) 日本と東アジアの国々との関係について考えてみましょう</p> <div data-bbox="869 824 1289 1122" style="border: 1px solid black; height: 133px; width: 263px; margin: 10px auto;"></div>	ウのa	第三次
<p>文明開化と生活の変化</p> <p>1 明治時代になって初めてできたものを探しましょう</p> <div data-bbox="237 1279 1302 1379" style="border: 1px solid black; height: 45px; width: 667px; margin: 5px 0;"></div> <p>2 文明開化による社会の変化をまとめましょう</p> <div data-bbox="237 1442 1302 1543" style="border: 1px solid black; height: 45px; width: 667px; margin: 5px 0;"></div> <p>3 明治時代の人々の生活を、江戸時代と比較してまとめましょう</p> <div data-bbox="237 1606 1302 1706" style="border: 1px solid black; height: 45px; width: 667px; margin: 5px 0;"></div> <p>4 明治時代の新しい思想の内容をまとめましょう</p> <div data-bbox="237 1767 1302 1868" style="border: 1px solid black; height: 45px; width: 667px; margin: 5px 0;"></div> <p>5 明治時代の人々の生活が大きく変化した背景を考えましょう</p> <div data-bbox="237 1928 1302 2029" style="border: 1px solid black; height: 45px; width: 667px; margin: 5px 0;"></div>	アのイのcウのc	第三次

4 観点別評価の進め方

「学習活動における具体的評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例及び「努力を要する」状況（C）と評価された生徒がいる場合の指導の手だての例を以下のようにまとめた。

	学習活動における具体的評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への指導の手だて
ア 社会的 事象 への 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	新政府の成立から明治10年ころまでの政治の動きのあらましや諸改革について、関心をもったことをノートに記入している。	ノートの内容から、明治維新の政治や社会、文化の動きに関する年表の作成に熱心に取り組み、疑問や調べてみたいことを見いだしていることが判断できた。	政治や社会の動きに関する事項を具体的に挙げさせ、この時期に新しく始まった事項に気付かせ、関心をもたせる。
	諸改革や文明開化がもたらした人々の生活の大きな変化について、気付いたことや疑問をノートに記入している。	ノートの内容から、人々の生活の大きな変化を表す錦絵の読み取りに積極的に取り組み、疑問や調べてみたいことを見いだしていることが判断できた。	服装や建物、乗り物など具体的な観点を示し、江戸時代との違いに気付かせて興味をもたせ、錦絵を読み取らせる。
	諸改革の内容や目的、影響などについて、追究したいことをノートなどに記入している。	ノートの内容から、新政府の諸改革に関する課題の追究に、図書室等で自ら収集した資料を活用するなど、積極的に取り組んでいることが判断できた。	課題の追究に活用できる資料を具体的に指摘して教科書等から見いだし、何をどう追究するかを考えさせ追究の意欲を持たせる。
	人々の生活の大きな変化やその背景について、追究したいことをワークシートに記入し発表している。	ワークシートや発表の内容から、人々の生活の大きな変化に関する課題の追究に、図書室等で自ら収集した資料を活用するなど、積極的に取り組んでいることが判断できた。	課題の追究に活用できる資料を具体的に指摘して教科書等から見いだし、何をどう追究するかを考えさせ追究の意欲を持たせる。
イ 社会的 な 思 考 ・ 判 断	明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する学習課題をワークシートなどに記入している。	ワークシートの内容から、明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する課題を複数見いだしていることが判断できた。	発表された気付きや疑問、分類してできた内容のまとめりから、何を課題として取り上げるかを考えさせる。
	明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する学習課題の追究方法を明らかにし、学習計画を立て、それをワークシートなどに記入している。	ワークシートの内容から、明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に関する学習課題の追究方法を複数見だし、それを取り入れて学習計画を立てていることが判断できた。	課題を再確認させ、その追究方法を助言し、追究の手順を検討させる。
	a 新政府の方針や廃藩置県目的、身分制度の廃止、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交について、近代国家の基礎が整えられたことや外国の動きなどの視点から多面的・多角的に考察し、ワークシートなどに記入している。	ワークシートの内容から、新政府の方針や廃藩置県目的、身分制度の廃止について、江戸幕府の政治や、幕府と藩との関係と比較しながら考察したり、近代国家の基礎が整えられた視点から考察していることが判断できた。 ----- ワークシートの内容から、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交について、近代国家の基礎が整えられたことや複雑な国際情勢の中での独立の維持という視点から考察していることが判断できた。	新政府の方針や廃藩置県の内容、身分制度の廃止を教科書を活用してとらえさせ、江戸時代との相違点に気付かせて考えさせる。 ----- 我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交の内容を教科書を活用してとらえさせ、欧米列強が勢力を広げる情勢に気付かせ、なぜこ

		これらの政策が必要であったかを考えさせる。
b	学制・兵制・税制の改革の目的や影響について、近代国家の基礎が整えられたことや政府・国民などの視点から多面的・多角的に考察し、ノートなどに記入している。	ノートの内容から、学制の改革のもつ意味を、教育の普及と我が国の近代化との関連まで踏まえて考察していることが判断できた。
		学制の改革の目的や内容を教科書を活用してとらえさせ、今日につながる学校教育の基礎がつけられたことに気付かせるとともに、人々がどう受け止めていたかを考えさせる。
		徴兵制の改革の目的や内容を教科書を活用してとらえさせ、江戸時代との違いに気付かせるとともに、人々がどう受け止めていたかを考えさせる。
		地租改正の目的や内容を教科書を活用してとらえさせ、江戸時代との違いに気付かせるとともに、人々がどう受け止めていたかを考えさせる。
c	人々の生活の大きな変化について、新政府の諸改革や文明開化、江戸時代との比較などの視点から多面的・多角的に考察し、ワークシートなどに記入している。	ワークシートの内容から、人々の生活の大きな変化を新政府の諸改革、文明開化、江戸時代との比較や現在の生活との関連などの視点から考察していることが判断できた。
	明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化について考察させるペーパーテストの問いに対し、授業での成果をもとに解答している。	ペーパーテストの分析から、明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化について多面的・多角的に考察していることが判断できた。
ウ	a 新政府の方針や廃藩置県、身分制度の廃止、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交に関する資料を収集し、必要な情報を読み取り、ワークシートなどに記入している。	ワークシートの内容から、歴史地図から複数の都道府県で名称や範囲の変化が見られることを読み取っていることが判断できた。
		ワークシートの内容から、我が国の領土の画定、中国や朝鮮との外交を略地図上に分かりやすく表していることや、また、琉球の問題や北海道開拓について、年表に表現していることが判断できた。
	b 学制・兵制・税制の改革に関する資料を収集し、必要な情報を読み取り、ノートなどに記入している。	ノートの内容から、就学率の推移や授業の様子などを表す資料を収集し、就学率の変化を当時の社会の状況や慣習と関連付けて読み取ったり、授業の様子を今日と比較して読み取ったりしていることが判断できた。
		歴史地図と地理的分野の学習で使っている現在の地図を比較させ、自分が居住している都道府県の名称や範囲の変化を読み取らせる。
		樺太千島交換条約、日本と中国や朝鮮との条約、沖縄県の成立などを具体的に指摘させ、外交に関する情報を整理してまとめさせる。
		就学率や授業の様子を示す資料を教科書等から具体的に指摘させ、就学率がどのように変化しているかや授業がどのように行われているかを読み取らせる。

		ノートの内容から，徴兵制の内容や徴兵令反対一揆の原因を「徴兵告諭」から読み取ったり，兵役免除の規定を資料から読み取ったりしていることが判断できた。	「徴兵告諭」の内容を教科書等から具体的に指摘させ徴兵制の内容を読み取らせるとともに，徴兵令反対一揆の起こった地域を歴史地図等から見いださせる。
		ノートの内容から，地券や租税収入のグラフなどを収集し，地租改正の内容や租税収入に占める地租の割合の変化や農民の負担について読み取っていることが判断できた。	地券や租税収入のグラフを教科書等から具体的に指摘させ，地租改正の内容を読み取らせるとともに，グラフから地租改正による政府収入の変化を読み取らせる。
	c 人々の生活の大きな変化が分かる資料を収集し，その変化を読み取り，ワークシートなどに記入している。	ワークシートの内容から，人々の生活の大きな変化が分かる錦絵や挿し絵などを収集し，資料から具体的な変化を複数見いだしていることが判断できた。	人々の生活の大きな変化が分かる錦絵や挿し絵を具体的に挙げ，明治時代になり初めて出現したものに何があるかを，江戸時代と比較させ見いださせる。
	新政府の諸改革の内容，目的，影響や人々の生活の変化を報告書などにまとめている。	報告書の内容から，新政府の方針や諸改革の内容，目的，影響や人々の生活の大きな変化について調べたことを，図表などを用いて分かりやすくまとめていることが判断できた。	設定した課題，追究の手順，追究の結果分かったことを再確認させ，ノートなどに発表内容を整理させる。
	新政府の諸改革の内容，目的，影響や人々の生活の変化を発表している。	発表の様子から，新政府の方針や諸改革の内容，目的，影響や人々の生活の大きな変化についてまとめたことを，視聴覚機器等を活用するなどして分かりやすく発表していることが判断できた。	発表内容を再確認させ，再度内容を整理させ，発表のポイントを確認させる。
工 社 会 的 事 象 に つ い て の 知 識 ・ 理 解	新政府の方針や廃藩置県，身分制度の廃止，我が国の領土の画定，中国や朝鮮との外交の内容や目的について理解し，その知識を身に付けている。	ノート・ワークシート・報告書の内容やペーパーテストの分析から，新政府の方針や廃藩置県，身分制度の廃止，我が国の領土の画定，中国や朝鮮との外交について，その内容や目的を近代国家の建設や複雑な国際情勢とかかわらせて理解し，その知識を身に付けていると判断できた。	新政府の方針や廃藩置県，身分制度の廃止，我が国の領土の画定，中国や朝鮮との外交について，その内容や目的を整理しまとめさせる。
	学制・兵制・税制の改革の内容，目的，影響について理解し，その知識を身に付けている。	ノート・ワークシート・報告書の内容やペーパーテストの分析から，学制・兵制・税制の改革の内容や目的，影響について相互に関連させて理解し，また，明治維新は，欧米列強に比肩できる近代国家の胎動期であったことを理解し，その知識を身に付けていると判断できた。	学制・兵制・税制の改革について，その内容や目的，影響を整理しまとめさせる。
	人々の生活の大きな変化とその背景について理解し，その知識を身に付けている。	ノート・ワークシート・報告書の内容やペーパーテストの分析から，生活の大きな変化の背景を，新政府の方針や諸改革と関連付けて理解し，その知識を身に付けていると判断できた。	人々の生活の大きな変化について，整理しまとめさせる。
	明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化について理解を問うペーパーテストに対し，	明治維新の経緯のあらましについて国際情勢とかかわらせて理解するとともに，生活の大きな変化について新政府の諸改革と関連付けて理解し，その知識を身に付けてい	明治維新の経緯のあらましと生活の大きな変化について，整理しまとめさせる。

授業での成果をもとに解答している。	ると判断できた。	
-------------------	----------	--

(注)「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への指導の手だてについては、授業中適宜行ったり、授業後に行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 重み付けについて

観点別評価を行う際に留意すべき点として、評価方法によって重み付けを考慮することが考えられる。例えば、各単元で行う評価の方法や手段としては、ペーパーテストによる評価、日常の授業場面における生徒の学習活動の観察、生徒が作成した年表や略地図などの作品の分析、生徒が作成した発表資料の分析、ワークシートや報告書に書かれた内容の分析など様々なものが考えられる。そこで一つの観点に対して複数の評価方法・手段がある場合は、それぞれの特性に応じてその評価結果に対する重み付けを事前に決めて評価を行うことなどが考えられる。

(2) 重み付けの適用例

<「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点>

歴史的分野の事例として取り上げた単元「明治維新」の「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点については、生徒の内面を探らないと分からないことが多い。そこで下表に示した評価方法のうち、生徒の内面にある関心・意欲・態度を外に示すことを求めるノートやワークシートの記入内容から得られる評価結果に対する重み付けを他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べ大きくすることが考えられよう。

そこで例えば、Yさんが評価基準の A が A, B が B, C が C, D が A の評価であった場合の総括は次のとおりである。下表のようにノート・ワークシートによる評価は60%(6割)の割合となっており、これを各評価基準に20%(2割)ずつ分けることとする。また、学習活動の観察による評価は40%(4割)の割合になっている。これにより、各評価基準の比率は A : B : C : D = 2 : 2 : 2 : 4 となり、この割合に応じ集計を行う。Yさんの評価結果をこの比率に当てはめると、A が2A, B が2B, C が2C, D が4Aとなる。これを集計するとAが6個、Bが2個、Cが2個となる。

この集計結果に対して、事前に「Aが全体の6割以上を占める場合この観点の総括をAとし、Cが全体の6割以上を占める場合をCとし、それ以外の場合をBとする。」と決定しているとき、本単元におけるYさんの「関心・意欲・態度」の評価は「十分満足」(A)となった。

学習活動の観察()	ノート・ワークシート()	合計
40%	60%	100%

(表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価基準」の番号と同じ)
他の3観点も同様の方法で評価を考慮することができるので、以下の観点については重み付けだけについて述べることにする。

<「社会的な思考・判断」の観点>

「社会的な思考・判断」の観点では、「思考・判断」が「関心・意欲・態度」と同様に生徒の内面の活動であるので、思考・判断を記述させるノート・ワークシートから得られる評価結果に対する重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

学習活動の観察()	ノート・ワークシート(a b c)	ペーパーテスト()	合計
20%	40%	40%	100%

(表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価基準」の番号と同じ)

<「資料活用の技能・表現」の観点>

「資料活用の技能・表現」の観点では、課題追究の過程が分かる発表の基になった資料の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られた評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

学習活動の観察(a b c)	ノート・ワークシート(a b c)	発表資料()	合計
30%	30%	40%	100%

(表中の 印の番号は、上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価基準」の番号と同じ)

<「社会的事象についての知識・理解」の観点>

「社会的事象についての知識・理解」の観点では、理解内容を幅広くとらえることができるペーパーテストの重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

「社会的事象についての知識・理解」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）		
ポート・ワークシート（ ）	ペーパーテスト（ ）	合計
20%	80%	100%

（表中の 印の番号は，上記「観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価基準」の番号と同じ）

ここでは評価方法・手段に重み付けを行い，それをもとに単元ごとの観点別評価の総括を行った例を述べたが，この外にも，様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。

公民的分野

単元名 「現代日本の歩みと私たちの生活」(10時間)(第3学年 4月)

1 単元の見聞

- (1) 高度経済成長以降の社会的事象に対する関心を高め、課題を設け意欲的に追究させ、国際社会における我が国の役割について考えようとする態度を養う。
- (2) 高度経済成長以降の社会的事象から課題を見だし、現代日本の発展の過程を踏まえ国際社会における我が国の役割について、過去と現在との比較、世界と日本との関係から考察させるとともに、我が国の在り方について様々な観点に立って公正に判断させる。
- (3) 高度経済成長以降の社会的事象に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を選択して活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめさせたり発表や討論など様々な方法で表現させる。また、調査の方法やまとめ方、発表の仕方を身に付けさせる。
- (4) 現代日本の発展過程や国際化の進展のあらましについて理解させるとともに、情報化、少子高齢化、国際化など現代社会の特色に気付かせる。

2 単元の見聞基準

	内容のまとめごとの見聞基準	単元の見聞基準	学習活動における具体的見聞基準
ア	高度経済成長以降の社会的事象に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、国際社会における我が国の役割を考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象に対する関心が高まっている。 ・「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえて具体的な課題を設け意欲的に追究している。 ・高度経済成長以降の国際社会における我が国の役割の変化について具体的に考えようとしている。 	<p>高度経済成長以降の社会の様々な変化について関心をもったことをワークシートに記入している。</p> <p>高度経済成長以降の社会の様々な変化にかかわって、特に追究したいと思うテーマの設定理由をワークシートに記入している。</p> <p>この単元の学習後、さらに調べてみたいと思う関心のあることを課題としてあげ、その理由をワークシートに記入している。</p> <p>自己評価カードに自分の追究意欲の状況について記入している。</p> <p>調査や作業活動を通して、課題を意欲的に追究している。</p> <p>課題を追究する学習計画を立て、それをワークシートに記入している。</p>
イ	高度経済成長以降の社会的事象から課題を見だし、現代日本の発展の過程を踏まえ国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、我が国の在り方について様々な観点から公正に判断している。	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象から「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえた課題を見だししている。 ・国際社会における我が国の役割について、国際平和や国際協力などの事例を取り上げ、多面的・多角的に考察している。 ・国際社会における我が国の在り方について政治的、経済的な観点から公正に判断している。 	<p>高度経済成長以降の社会の様々な変化から、「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の観点を踏まえ日常生活にかかわる課題を見だし、ワークシートに記入している。</p> <p>国際社会における日本の役割がどのように変化したかについて、過去と現在の比較、世界との結び付きの両方の視点から考察し、それを報告書に記入している。</p> <p>授業で使われなかった資料を基に、国際社会における日本の役割について考察させるペーパーテストの問いに対し、過去と現在の比較、世界との結び付きの両方の視点を含んだ内容を解答している。</p> <p>国際社会におけるこれからの我が国の在り方について政治的、経済的な観点から公正に判断し、提言というかたちでワークシートに記入している。</p>
ウ	高度経済成長以降の社	・高度経済成長から今日までの	高度経済成長から今日までの我が国や国際

資料 活用 の 技 能 ・ 表 現	<p>会的事象に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。</p>	<p>我が国や国際社会の諸事象に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した資料の中から、「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえた具体的な課題を追究する学習に役立つ情報を適切に選択し活用している。 ・「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえた具体的な課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 ・調査の方法やまとめ方、発表の仕方を身に付けている。 	<p>社会の諸事象に関する資料を様々な手段を活用して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作っている。</p> <p>課題意識をはじめ学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果を報告書にまとめている。</p> <p>課題意識をはじめ学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果を発表している。</p> <p>自分の発表について分かりやすく説明できたかどうかを自己評価カードに記入しているとともに、発表に関する質問項目に対し、発表についてどのように工夫したかについて回答している。また、他の生徒から発表について、分かりやすく説明しているという評価を評価カードに記入してもらっている。</p>
工 社 会 的 事 象 に つ い て の 知 識 ・ 理 解	<p>社会の変容や特色をとらえるために比較という方法があることを理解し、現代日本の発展の過程、国際化の進展のあらましについて理解するとともに、現代社会の特色に気付き、その知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変容と現代社会の特色をとらえるために、世界と比較したり過去と比較したりする方法について理解し、その知識を身に付けている。 ・高度経済成長から今日までの我が国の変容について、国民生活の変化に着目して理解し、その知識を身に付けている。 ・我が国と世界の諸国との友好関係が成立し国際交流が深まったことを理解し、その知識を身に付けている。 ・我が国が世界の国々と経済的な結び付きが深まった様子を理解し、その知識を身に付けている。 ・現代社会の特色として、情報化、少子高齢化、国際化などに気付き、その知識を身に付けている。 	<p>社会の変化や現代社会の特色をとらえるために、比較という方法があることと、何を比較すればよいかを、ワークシートにまとめている。</p> <p>学習の結果理解した内容として、ノートに次のことを記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長以降、我が国が豊かな国となったこと ・我が国は、政治的にも経済的にも国際社会で大きな役割を担うようになってきたこと ・現代社会の特色として情報化、少子高齢化、国際化などがあること <p>高度経済成長から今日までの我が国及び国際社会の変容や現代社会の特色について理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。</p>

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

- 第一次「社会生活の変化(昔と今の違い)」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2時間)
- 第二次「適切な課題を設けて行う学習のガイダンスと課題設定・追究計画の作成」・・・・ (2時間)
- 第三次「課題追究と報告書作成」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4時間)
- 第四次「発表」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2時間)

(2) 指導と評価の展開例

次 程	ね ら い ・ 学 習 活 動	単元の評 価規準と の関連	評 価 方 法 等
<p>一次 (2 時間 扱い)</p>	<p>ねらい 社会生活の変化を，昔と今の違いから読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちはどのような社会に生きているのか」を考えることを通して，現代社会を概観しようとしていることについて，ガイダンスを受ける。 ・写真，統計資料，年表，ビデオなどを見て，高度経済成長以降の社会の変化について読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 資料例 > 高度経済成長の始まり サンフランシスコ平和条約，国連加盟 東名高速道路，東海道新幹線の開通 東京オリンピック 集団就職 家電製品の普及 貿易の拡大 石油危機と貿易摩擦 ODAの拡大 海外旅行者の増大 バブル景気とその後の不況 情報機器の発達 学生の人気企業の変遷 少子化，高齢化 外国人労働者の増加 等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長以降の社会の様々な変化を簡単に調べてみる。 ・高度経済成長以降の社会の様々な変化について調査したことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 発表例 > 家電製品の普及により生活はどのように変わったか。 高度経済成長以降の輸出入品，貿易相手国はどのように変わったか。 世界との結び付きが強くなる中，日本は国際社会でどのように活躍してきたか。 少子化により学校の生徒数はどのように変化したか 等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長以降の社会の様々な変化について，関心をもったことをワークシートにまとめる。 	<p>アの</p>	<p>関心をもったことをワークシートに記入させ内容を事後に分析する（関心）</p>
<p>二次 (2 時間 扱い)</p>	<p>ねらい 適切な課題を設けて行う学習についてのガイダンスを行い，この単元が，高度経済成長以降の我が国の国民生活の変化などに関する学習を通して現代社</p>		

	<p>会の特色に気付かせることをねらいとして理解させ、社会の変化や現代社会の特色をとらえるために比較という方法があることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な課題を設けて行う学習の概要をとらえる。 課題の設け方，調査の仕方，資料の使い方，発表や話し合いの仕方など追究の仕方，学習の仕方を学ぶ。 実際に社会の変化や特色をとらえるために比較という方法があることを学ぶ。 		
	<p>ねらい 「高度経済成長以降の社会の様々な変化」のうち、特に調べたいことを課題（学習テーマ）として設定し、追究のための学習計画を立てさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人またはグループで、「国民生活の向上」「日本と世界との結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を含んだ課題（学習テーマ）を設ける。 次のことを話し合う。 設定した課題（学習テーマ）に対し追究方法が適切かどうかを話し合う。 過去と現在，世界と日本との比較について何を比較すれば変化が分かるか話し合う。 世界とのかかわりについて，どんなかかわりを調べればよいか話し合う。 課題追究のための学習計画を立て，ワークシートに記入する。 	<p>イの アの エの アの</p>	<p>設定した課題とその課題を追究すると何が明らかになるかをそれぞれワークシートに記入させ，その内容を事後に分析する（思考）。</p> <p>追究したいと思うテーマの設定理由をワークシートに記入させ事後に分析する（関心）。</p> <p>比較することの意味と何を比較すればよいかをワークシートに記入させ事後に分析する（理解）。</p> <p>学習計画をワークシートに記入させ事後に分析する（態度）。</p>
<p>三次 (4 時間 扱い)</p>	<p>ねらい 課題を追究させるとともに，課題追究の過程で調べ方の技能を身に付けさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 技能例 > 図書資料，新聞，広報誌等を使った調べ方 現地調査，観察の方法 インタビューの方法(対象や聞き方) インターネットによる情報収集 等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 過去の新聞記事を収集する。 電話やFAXでの取材を行う。 インターネットで調べてみる。 課題に関係する人から聞き取り調査を行う（インタビュー）。 集めた資料から課題解決に役立つ内容を取り出しまとめる。 <p>ねらい 追究した結果を簡単な報告書にまとめさせ，まとめ方の技能を身に付けさせる。</p>	<p>アの アの ウの</p>	<p>自己評価カードに意欲について記入させ，事後に分析する（意欲）。</p> <p>追究の様子を観察する（意欲）。</p> <p>収集した資料名と収集した手段，入手先の一覧表を作成させ事後に分析する(技能)。</p>

	<p><技能例> 情報の分析の仕方 グラフ化，図表化の仕方 報告書の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を整理する。 ・追究方法を整理する。 ・分かったことや，どのような根拠で結論を出したかをまとめる。 ・どのような資料が役立ったかを整理しまとめる。 	<p>イの ウの イの</p>	<p>考察した内容を報告書にまとめさせどのような考察をおこなったかを事後に分析する（思考）。</p> <p>報告書の内容を情報活用や表現という観点から事後に分析する（技能・表現）。</p> <p>国際社会における我が国の在り方についての提言をワークシートに記入させ，その内容を事後に分析する（判断）。</p>
<p>四次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい 追究したことを発表させ，発表の仕方の技能を身に付けさせるとともに，発表内容をもとに話し合わせ，課題学習の整理を行わせる。</p> <p><技能例> 新聞，紙芝居，劇化などの方法 効果的なプレゼンテーションの方法 報告書の書き方 発表原稿の書き方，配布資料の準備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料，提示資料を用意する。 ・分かりやすく発表する（課題意識，追究方法，どのような資料からどのようなことを考え，分かったことは何かについて）。 ・他の生徒の発表内容を記録し，自分の課題追究との違いや疑問点をワークシートに記入する。 ・自分の発表についての自己評価，他の生徒の発表について評価を行う。 ・発表を参考にして，「現代社会の特色とは」「国際社会における我が国の役割」という観点から話し合いを行い，学習内容の理解を深め，この単元のねらいを確認するとともに，次の2項目について自分なりのまとめを行う。 話し合いを通して感じたこと，分かったことなどを課題追究の成果としてノートに整理する。 更に調べてみたい課題や今後の政治・経済の学習への期待をワークシートの最後にまとめ，記述する。 	<p>ウの ウの エの アの</p>	<p>発表の仕方と発表内容を分析する（技能・表現）。</p> <p>（どのような課題意識をもち，どのような資料から役立つ情報を得たか。その情報から何を考え，どのような根拠で結論を導き出したか，追究の計画など）</p> <p>自己評価表，他者評価表を事後に分析する（表現）。</p> <p>ノートに記入した内容を事後に分析する（理解）。</p> <p>今後調べてみたい課題とその理由をワークシートに記入させ事後に分析する（関心）。</p>
<p>*</p>	<p>ペーパーテストの実施（中間・期末に学習内容に沿ってテストする，あるいは単元終了後に小テストをおこなう）</p>	<p>イの エの</p>	<p>ペーパーテストで，授業では使わなかった資料から考察した内容を記述させそれを分析する（思考）。</p> <p>ペーパーテストで，授業で理解した内容，身に付けた知識を確認する（知識・理解）。</p>

(注)「指導と評価の展開例」中の 印の番号は，前ページの学習活動における具体的評価規準の番号と一致している。

参考資料

< 単元「現代日本の歩みと私たちの生活」で使用するワークシートの工夫例 >

私たちはどのような社会に生きているのだろうか? _____ 年 組 番 名前

高度経済成長期以降の社会の変化のうち、関心を持ったことはどのようなことですか?

高度経済成長期以降の社会の様々な変化について特に調べてたいことを書いてみよう!

追究する課題(学習テーマ)を書いてみよう!

課題を追究するために、何と何を比較すればいいのだろうか?

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

なぜ、その課題を追究しようとしたのですか?
【理由】

課題を追究するとどんなことが分かるだろうか? 【内容】

学習計画を立てよう!

時	月日(曜)	調査・研究内容	自己評価項目			他者評価	
						アドバイス	総合

自己評価項目： 学習計画を自分なりに立てたか 問題を自分なりに考えようと努力したか
 疑問点を積極的に質問したか 資料や情報を積極的に集めようとしたか

自己評価： A = よく努力した， B = 自分なりに努力した， C = 努力が足りなかった

国際社会における我が国の在り方について提言してみよう!

これまで学習したことをもとに、今後さらに調べてみたい課題を書いてみよう。

連	次
関	程
ア	第一
イ	第二
ア	ア
エ	エ
ア	ア
イ	第三
ア	第四

<自己評価カードの工夫例>

A 追究カード

自己評価カード	年 組 番 名 前
追究してみたい学習課題を見つけることができたか。	はい 普通 いいえ └──────────┘
学習課題を解決するために、どのような追究をしていくかすじ道を思いえがけたか。	はい 普通 いいえ └──────────┘
関係のありそうな資料を数多く集めることができたか。	はい 普通 いいえ └──────────┘
学習課題の解決について、積極的に話し合いができたか。	はい 普通 いいえ └──────────┘
調べたことや考えたことを、ノートやレポートにきちんとまとめることができたか。	はい 普通 いいえ └──────────┘
友だちにわかりやすく伝えることができたか。	はい 普通 いいえ └──────────┘
分かりやすい発表にするため、どんな工夫を行ったかについて自己評価してみましょう。	
わたしは発表では、	

B 学習への参加カード

評 価 項 目	評 価	評 価 項 目	評 価
1 準備物が整っていた	A B C	5 まとめや意見が書けた	A B C
2 静かに集中していた	A B C	6 家庭学習に取り組めた	A B C
3 進んで発表できた	A B C	7 授業の感想	
4 友だちの意見をよく聞いた	A B C		

<発表に対する他者評価カードの工夫例>

他者評価カード	年 組 番 名 前
	とてもよい 普通 努力が必要
グループの人数と発表内容のレベルは適切か。	A B C
まとめ方に工夫は見られるか。	A B C
内容はわかりやすいものであったか。	A B C
すじ道（論理性、客観性）だてられていたか。	A B C
内容は、現代社会の特色を具体的にまとめていたか。	A B C
内容は、将来の我が国の国際社会における役割を考へる上で参考になるものか。	A B C
発表の仕方はよかったか。	A B C
その他、とくに気付いたこと（さらに良くなる点を具体的に書く。）	
	総合評価 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>

4 観点別評価の進め方

「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例及び「努力を要する」状況（C）と評価された生徒がいる場合の指導の手だての例を以下にまとめた。

	学習活動における具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した生徒の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への指導の手だて
ア 社会的 事象への 関心・ 意欲・ 態度	高度経済成長以降の社会の様々な変化について関心をもったことをワークシートに記入している。	ワークシートに記入した内容から、他の生徒の発表を聞いたり、自分が調べたことをもとにして、これまでよりも関心の高まったことが判断できた。	歴史的分野の学習を整理させ、高度経済成長以降の社会の変化に対する興味・関心を引き出す。
	高度経済成長以降の社会の様々な変化にかかわって、特に追究したいと思うテーマの設定理由をワークシートに記入している。	ワークシートに記入した内容から、テーマの設定理由として、家業や進路希望と関連のある産業を調べたいなど、自分とのかかわりから関心をもつようになったことや、前時の学習をもとにした内容をあげていると判断できた。	前時の学習を思い起こさせたり、生徒の進路希望と関連させたりして、生徒の関心を焦点化させる。
	この単元の学習後、さらに調べてみたいと思う関心のあることを課題としてあげ、その理由をワークシートに記入している。	ワークシートに記入した内容から、関心のあることを課題としてあげ、調べてみたい理由として、この単元の学習の成果をさらに発展させた内容をあげていると判断できた。	この単元全体の学習のポイントを整理させ、生徒の関心を焦点化させる。
	自己評価カードに自分の追究意欲の状況について記入している。	3段階評定尺度（意欲が最も高い「はい」が3、「普通」が2、意欲が低い「いいえ」が1）による追究意欲についてのアンケートで、3と記入し、かつ「あなたは調査したときにどのような工夫を行いましたか」という質問項目に対し、工夫した内容を書いていると判断できた。	追究意欲が低かったのはどうしてかを考えさせ、生徒の関心のある問題の設定の仕方や追究方法を検討させる。
	調査や作業活動を通して、課題を意欲的に追している。	学習計画に従って、調査や作業活動を行う中で新たな課題を見つけ、さらに調査や作業の範囲を広げながら追究していると判断できた。	机間指導で生徒へのアドバイスや励ましを行う。
	課題を追究する学習計画を立て、それをワークシートに記入している。	ワークシートに記入した内容から、次の二つの方法を含め、様々な追究方法を取り入れて学習計画を立てていると判断できた。 ・過去と現在を比較することを通して調べる。 ・世界とのかかわりを調べる。	追究方法について復習させ、テーマを追究する方法として適切なものをアドバイスし、追究しようとする態度を育てる。
イ 社会的な 思考・ 判断	高度経済成長以降の社会の様々な変化から、「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点を踏まえ日常生活にかかわる課題を見だし、ワークシートに記入している。	ワークシートに記入した内容から、高度経済成長以降の社会の様々な変化から「国民生活の向上」「日本と世界の結び付きの変化」「国際社会における日本の役割の変化」の三つの観点に沿って日常生活にかかわる具体的な課題を見出し、その課題を追究すると何が明らかになるかを考察していると判断できた。	三つの観点を意味を理解させ、地理的分野、歴史的分野の学習を整理させて、何を課題として取り上げるかを考えさせる。
	国際社会における日本の役割がどのように変化したかについて、過去と現在の比較、世界との結び付きの両方の視点から考察し、それ	報告書に記入した内容から、国際社会における日本の役割の変化について、過去と現在の比較、世界との結び付きの両方の視点を明確にし、かつ、国際平和や国際協力などの具体的な事例を取り上げて論理的に考察してい	地理的分野や歴史的分野の学習を整理させ、日本と国際社会とのかかわりについて関心のある事項を取り上げて考察させ

	を報告書に記入している。	ると判断できた。	る。
	授業で使われなかった資料を基に、国際社会における日本の役割について考察させるペーパーテストの問いに対し、過去と現在の比較、世界との結び付きの両方の視点を含んだ内容を解答している。	授業で使われなかった資料を基に、国際社会における日本の役割について考察させるペーパーテストの問いに対する解答内容から、過去と現在の比較、世界との結び付きの両方の視点を明確にし、かつ、国際平和や国際協力などの具体的な事例を取り上げて論理的に考察していると判断できた。	授業で考察した内容を整理させて、再度ペーパーテストの問題を解かせる。
	国際社会におけるこれからの我が国の在り方について政治的、経済的な観点から公正に判断し、提言というかたちで我が国の在り方をワークシートに記入している。	ワークシートに記入した内容から、国際社会におけるこれからの我が国の在り方について、地理的分野、歴史的分野の成果を生かすとともに、国際平和や国際協力など様々な観点から公正に判断し、理由を示しながら我が国の在り方を提言していると判断できた。	地理的分野や歴史的分野の学習を整理させ、国際平和と国際協力で果たす日本の役割について、キーワードを幾つかあげさせ、文章にまとめさせる。
ウ 資料 活用 の 技能 ・ 表現	高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象に関する資料を様々な手段を活用して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作っている。	作成した一覧表の内容から、高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の諸事象に関する資料を新聞記事やインターネット、インタビュー、電話、FAXなど様々な手段を活用して収集し、学習に役立つ資料を取捨選択して活用しやすく整理するとともに、その収集方法と入手先についてまとめていると判断できた。	資料収集の方法（コンピュータの操作方法等）について指導を行うとともに、追究するテーマに役立つ資料を具体的に想定させる。
	課題意識をはじめ学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果を報告書にまとめている。	報告書に記入した内容から、次のような項目を含め、様々な項目立てをして報告書の内容を構成し、かつ、図表などを効果的に活用して、分かりやすく自分なりの工夫を行いながらまとめていると判断できた。 ・どのような課題意識をもったか ・学習の計画 ・どのような資料から学習に役立つ情報を得たか ・追究して得た結論と、どのような根拠で結論を導き出したか	どのような関心から課題を設け、どのような方法で追究し、なにが分かったのかを再度整理させ、短い文章でまとめさせる。
	課題意識をはじめ学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果を発表している。	発表した内容から、次のようなポイントで発表内容を構成し、かつ、資料から得た情報をまとめ、自分なりの工夫を行って分かりやすく発表していると判断できた。 ・どのような課題意識をもったか ・学習の計画 ・どのような資料から役立つ情報を得たか ・追究して得た結論と、どのような根拠で結論を導き出したか	どのような関心から課題を設け、どのような方法で追究し、何が分かったのかを再度整理させ、発表内容のポイントを確認させるとともに、発表原稿の作成方法を身に付けさせる。
	自分の発表について分かりやすく説明できたかどうかを自己評価カードに記入しているとともに、発表に関する質問項目に対し、発表についてどのように工夫したかについて回答している。また、他の生徒から発表について、分かりやすく説明しているという評価を	発表についての自己評価を3段階評価尺度（発表が最も分かりやすいことをあらわす「はい」が3、「普通」が2、分かりにくいをあらわす「いいえ」が1）で行い、評価を3とし、かつ「発表のときにどのような役割を持ち、分かりやすい発表にするため、どんな工夫を行ったか」という評価項目に対し、工夫した内容を書いていると判断できた。また、他の生徒からの評価（とてもよいがA、普通がB、努力を要するがC）でAと記入されている。	どのような関心から課題を設け、どのような方法で追究し、何が分かったのかを再度整理させ、発表内容のポイントを確認させるとともに、発表原稿の作成方法を身に付けさせる。

	評価カードに記入してもらっている。		
工 社 会 的 事 象 に つ い て の 知 識 ・ 理 解	社会の変化や現代社会の特色をとらえるために、比較という方法があることと、何を比較すればよいかを、ワークシートにまとめている。	ワークシートに記入した内容から、社会の変化や現代社会の特色をとらえるために比較という方法があることや、何を比較すれば効果的かを、日常生活とのかかわりの深い衣食住の具体例をあげるなどして、的確にまとめていると判断できた。	現代社会の特色を明らかにするため、過去と現在の何を比べたのか、世界と日本の何を比べたのかを整理させる。
	学習の結果理解した内容として、ノートに次のことを記入している。 ・高度経済成長以降、我が国が豊かな国となったこと ・我が国は、政治的にも経済的にも国際社会で大きな役割を担うようになってきたこと ・現代社会の特色として情報化、少子高齢化、国際化などがあること	ノートに記入した内容から、学習の結果理解した内容として、次のことについて、地理的分野や歴史的分野の学習の成果を生かすとともに、日常生活とのかかわりの深い衣食住の具体例を取り上げるなどして分かりやすく整理してまとめていると判断できた。 ・高度経済成長以降、我が国が豊かな国となったこと ・我が国は、政治的にも経済的にも国際社会で大きな役割を担うようになってきたこと ・現代社会の特色として情報化、少子高齢化、国際化などがあること	この単元の学習内容を整理させ、我が国の発展の過程や現代社会の特色をまとめさせる。
	高度経済成長から今日までの我が国及び国際社会の変容や現代社会の特色について理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。	ペーパーテストの解答状況から、高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の変容について、科学技術や経済成長を通しての国民生活の向上、貿易を通しての世界との結び付き、国際社会における日本の役割の変化、などに結び付けて理解するとともに、現代社会の特色を情報化、少子高齢化、国際化などの観点から具体的に理解し、その知識を身に付けていると判断できた。	この単元の学習内容を整理させ、我が国の発展の過程や現代社会の特色をまとめさせる。

(注)「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への指導の手だてについては、授業中適宜行ったり、授業後において行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 重み付けについて

観点別評価を行う際に留意すべき点として、評価方法によって重み付けを考慮することが考えられる。例えば、各単元で行う評価の方法や手段としては、ペーパーテストによる評価、日常の授業場面における生徒の学習活動の観察、生徒が作成した作品の分析、生徒の発表内容の分析、ワークシートや報告書に書かれた内容の分析など様々なものが考えられる。そこで一つの観点に対して複数の評価方法・手段がある場合は、それぞれの特性に応じてその評価結果に対する重み付けを事前に決めて評価を行うことなどが考えられる。

(2) 重み付けの適用例

<「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点>

公民的分野の事例として取り上げた単元「現代日本の歩みと私たちの生活」の「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点については、生徒の内面を探らないと分からないことが多い。そこで、下表に示した評価方法・手段のうち、生徒の内面にある関心・意欲・態度を外に示すことを求めるワークシートの記入内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

そこで例えば、Yさんが評価規準の がA、 がB、 がC、 がA、 がA、 がAの評価であった場合の総括は次のとおりである。下表のようにワークシートによる評価は80%(8割)の割合となっており、これを、の各評価規準に20%(2割)ずつ分けることとする。これにより、各評価規準の比率は : : : : = 2 : 2 : 2 : 1 : 1 : 2 となり、この比率に応じ集計を行う。Yさんの評価結果をこの比率に当てはめると が2A、 が2B、 が2C、 が1A、 が1A、 が2Aとなる。これを集計するとAが6個、Bが2個、Cが2個となる。

この集計結果に対して、事前に「Aが全体の6割以上を占める場合この観点の総括をAとし、Cが全体の6割以上を占める場合をCとし、それ以外の場合をBとする。」と決定しているとき、本単元におけるYさんの「関心・意欲・態度」の評価は「十分満足」(A)となった。

「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）			
ワークシート()	自己評価()	観察()	合計
80%	10%	10%	100%

（表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）
他の3観点も同様の方法で評価を考慮することができるので、以下の観点については重み付けだけについて述べることにする。

< 「社会的な思考・判断」の観点 >

「社会的な思考・判断」の観点では、「思考・判断」が「関心・意欲・態度」と同様に生徒の内面の活動であるので、思考・判断の全過程を記述させるような報告書の内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。また、授業で扱わなかった資料等を用いて思考・判断させるようなペーパーテストによる評価結果に対する重み付けを、他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることも考えられよう。

「社会的な思考・判断」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）			
ワークシート()	報告書()	ペーパーテスト()	合計
20%	40%	40%	100%

（表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

< 「資料活用の技能・表現」の観点 >

「資料活用の技能・表現」の観点では、この単元が、「適切な課題を設けて行う学習を取り入れるなどの工夫を行うこと。」（学習指導要領）が求められていることから、課題追究の過程や結果が記入されている報告書や発表の内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

「資料活用の技能・表現」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）				
資料一覧表()	報告書()	発表()	自己評価・他者評価()	合計
10%	50%	30%	10%	100%

（表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

< 「社会的事象についての知識・理解」の観点 >

「社会的事象についての知識・理解」の観点では、理解内容を幅広くとらえることができるペーパーテストの評価結果の重み付けを、下表に示した他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくすることが考えられよう。

「社会的事象についての知識・理解」の観点における評価方法の重み付けの割合（例）			
ワークシート()	ノート()	ペーパーテスト()	合計
10%	10%	80%	100%

（表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

ここでは評価方法・手段に重み付けを行い、それをもとに単元ごとの観点別評価の総括を行った例を述べたが、この外にも、様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。